

## 平成30年度 東住吉区運営方針

## 計画

## 区目標（何をめざすのか）

子どもが輝き、みんながしあわせなまち～ゆめ・だんらん・ひがしすみよし～

## 区の使命（どのような役割を担うのか）

区民一人ひとりの人権が尊重される社会の実現を基本に、「子育て層が住みたい、住み続けたいと思うまちづくり」「誰もが安心して心豊かに暮らせるまちづくり」「みんながつながるまちづくり」に取り組む。

## 平成30年度 区運営の基本的な考え方（区長の方針）

- ・「子どもたちのゆめを広げる」「子育てのまち・教育のまちにする」「おしゃれスポットを増やす」「不安ゼロのまちにする」「みんな健康で元気になる」「緑豊かでキレイなまちにする」「困ったときはお互い様のまちにする」「リアルなつながりを増やす」という8つの視点に基づく施策を推進する。
- ・上記施策を推進するにあたっては、区民が自分のまちを考えるきっかけづくりを積極的に設けるとともに、まちのセールスマンとして東住吉の魅力等を紙や電子媒体で区内外に積極的にPRする。
- ・区職員一人ひとりが区民に対し分かりやすく丁寧な初期対応を心がけ、区民ニーズに添ったおもてなし向上に向けた取組を行う。

## 重点的に取り組む主な経営課題（様式2）

経営課題の概要	主な戦略
<p>【経営課題1】子育て層が住みたい、住み続けたいと思うまちづくりの推進 子育て層が安心して子育てが出来るように、子育て等に関する知りたい情報を知る環境を整え、子育ての関係機関等と連携を深め、東住吉区に住みたい、住み続けたい子育て層が増える。</p>	<p>【戦略1-1】東住吉ゆめ応援プロジェクトの充実 区内の地域資源と連携しながら、子育て層にとって関心の高い分野に特化した施策を区独自に展開する。 【戦略1-2】子育て・教育支援の充実 発達障がい等のある児童生徒の行動面への支援や基礎学力の向上など各学校の課題に応じた教育活動を支援する。</p>
主な具体的取組（30年度予算額）	
<p>【具体的取組1-1-1】小学生英語交流の推進（3,670千円） 区内在住の小学3,4年生及び小学5,6年生を対象に英語力及び地域力を高める機会を提供 【具体的取組1-2-3】ニーズに応じた学校への支援（9,616千円） 学校生活において多種多様な支援が必要な児童生徒へのサポート等</p>	
経営課題の概要	主な戦略
<p>【経営課題2】誰もが安心して心豊かに暮らせるまちづくりの推進 誰もが健康的で安心して心豊かに暮らしていけるように、地域のあらゆる力を集めて、あたたかなつながりがあり、誰もが「しあわせに」暮らせる、住みよいまちにする。</p>	<p>【戦略2-2】犯罪のない安心できるまちづくりの推進 警察署、地域と連携して効果的な対策を継続的に取り組む。 【戦略2-3】魅力向上に向けたまちづくりの推進 特定空家の是正及び空家の適正管理や利活用の促進等を総合的に進める。</p>
主な具体的取組（30年度予算額）	
<p>【具体的取組2-2-1】犯罪類型に応じた対策（1,658千円） 街頭犯罪7手口の9割を占める自動車関連犯罪への対策等 【具体的取組2-3-1】地域活性化に向けた取組の推進（6,789千円） 空き家活性化サポーター制度を活用した利活用の推進、矢田南部地域におけるまちづくりの取組等</p>	
経営課題の概要	主な戦略
<p>【経営課題3】みんながつながるまちづくりの推進 多様化・複雑化する地域課題の解決を図るべく、住民や地域団体、企業、NPO等様々な団体や幅広い年代の区民がまちに愛着と関心を持ち、つながりあうまちにする。</p>	<p>【戦略3-1】東住吉つながりプログラムの充実 校区等地域を越えたまちづくりに関する活動をサポートし、情報発信を強化することで、区民のまちづくり活動への関心を高め、参加を促す。</p>
主な具体的取組（30年度予算額）	
<p>【具体的取組3-1-3】子育て支援の推進（11,856千円） 東住吉区子育て支援連絡会との協働による子育て施策の展開、家庭児童相談員等による相談体制の充実等 【具体的取組3-1-5】はつらつ脳活性化元気アップの推進（1,015千円） 社協・包括・学校医・キャラバンメイトとリーダーが連携し、小学5年生に、高齢者や認知症の理解を深める学習を実施（1～2校） 育成した子どもたちが「はつらつ脳活性化元気アップ講座」に参加、交流（1～2ヶ所）等</p>	

経営課題の概要	主な戦略
【経営課題4】まちづくりの推進に向けた情報資産の共有化 各地域に必要な資源、さまざまな活動主体の情報をつかみ、紙や電子媒体で、区職員がまちのセールスマンとして積極的に情報発信する。 地域内や他地域の情報を区民が主体的に知ることができる環境にある。	【戦略4-1】区政情報の広報戦略の展開 「東住吉区子育て応援ナビ」のホームページを充実し、LINEやfacebookなどをつかって、子育て層に情報を届ける。 【戦略4-2】地域における情報共有の促進 様々な地域課題や課題解決のための取組内容等に関する情報を地域内や地域間で共有できる場を設ける。
主な具体的取組（30年度予算額）	
【具体的取組4-1-1】区の広報媒体及び内容の充実（16,329千円） 区の新たな広報媒体の立ち上げと対象に応じた活用、東住吉区子育て応援ナビの改修 等	
経営課題の概要	主な戦略
【経営課題5】区民と共に創るまちづくりの推進 区民の意見・要望・提言の聴取に努め、区の特長や地域実情に即した区政が運営される区民主体の自治を実現できている。	【戦略5-1】区民の意見を反映した区政運営の実現 新・東住吉区将来ビジョンの実現に向けた、新たな区民参画型のしくみを構築する。
主な具体的取組（30年度予算額）	
【具体的取組5-1-1】区民等の参画と協働による区政運営（575千円） 新・東住吉区将来ビジョンの実現に向けた、区民が主役となるまちづくりプロジェクトのサポート(月1回) 等 【具体的取組5-1-2】アンケートの充実（2,100千円） 対象(子育て層)を限定したアンケート調査の実施、オンラインアンケートの活用 等	

「市政改革プラン2.0」に基づく取組等（様式3）	
主な取組項目	取組内容
国民健康保険料の収納率の向上	・従来の滞納整理に加えて現年度滞納者を中心に最終催告、差押予告の発送を強化 ・新規加入者の保険証交付時における口座振替の勧奨
主な取組項目	取組内容
介護保険料の収納率の向上	・保険料階層別(7段階以上)の納付督促 ・65歳到達1号被保険者への口座振替勧奨 など
主な取組項目	取組内容
改革を推進する職員づくり	・「東住吉区おもてなしプロジェクト」を継続実施し、各課を横断した取組を推進 ・タウンウォッチング研修の継続実施 など

## 自己評価

1年間の取組成果と今後取り組みたいこと

解決すべき課題と今後の改善方向

## 重点的に取り組む主な経営課題

### 経営課題 1

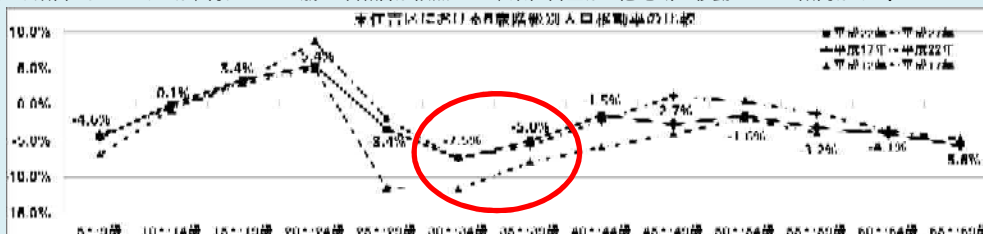
【子育て層が住みたい、住み続けたいと思うまちづくりの推進】

めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年間を念頭に設定＞

- ・子育て層が安心して子育てができるように、子育て等に関する知りたい情報を知る環境を整え、子育ての関係機関等と連携を深め、育ちやすい、育てやすいまちとして、東住吉区に住みたい、住み続けたい子育て層が増える。
- ・地域から孤立するなど子育てのしづらさを感じている養護者を減らし、前向きな子育てができる養護者を増やす。養護者が安心して楽しく子育てができ、子どもたちも健康ですくすくと育てられる東住吉区をめざす。あわせて虐待に至る事例を減少させ、虐待を起さない環境づくりを進める。

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

- ・子育て層の人口（25歳～44歳）（出典：H22,H27年国勢調査） 総務省の統計を参考に、子育て層を25歳～44歳と想定。  
 大阪市 H22 795,617人 H27 766,580人（増減数 28,587人、3.6%の減）  
 東住吉区 H22 34,397人 H27 30,351人（増減数 4,046人、11.8%の減）
- ・以前より改善されつつあるが、特に30～39歳の年齢層が依然として、東住吉区から他地域へ移動している傾向がある。

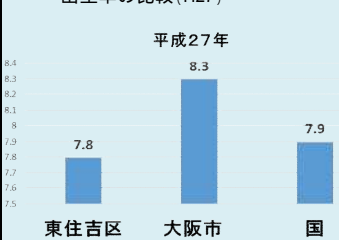


- ・東住吉区内での住みやすさ（H28第1回区民アンケート）（25～44歳の率、（ ）内は全体の率）  
 とても住みやすい 25.2% (30.2%) まままあ住みやすい 61.7% (58.6%) 否定的評価 12.1% (7.2%)

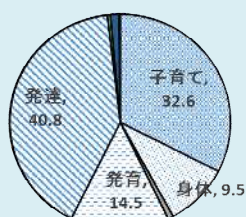
- ・乳幼児健診での追跡要因の3割は、「子育て・養育」の問題があり、その内訳は、子どもの問題行動や養護者自身の問題により子育てのしづらさを訴える「育児不安」、養護者の「養育精神」53.4%、養護者からの「虐待・その疑い」「養育態度（ネグレクト疑い含）」18.9%とで、「子育て・養育」問題の約7割を占めており、子育てのしづらさから子育てが楽しくないと感じる養護者が少なくない。

計画

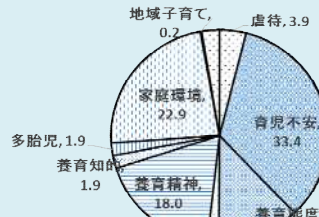
出生率の比較（H27）



乳幼児健診での追跡要因（H28）



追跡要因「子育て」の内訳（H28）



要因分析（現状・データから導かれる分析結果）＜めざすべき将来像と現状に差が生じる要因＞

- ・東住吉区における子育て層の人口の減少率が市全体を大きく上回り、過去の統計だが30代の転出も依然として多く、区民アンケートによる住みやすさの評価にもその結果が現れていることから、子育て層にとって「住みたい、住み続けたいまち」として魅力を感じにくいことが要因の一つと考えられる。
- ・東住吉区では子育て層が安心して楽しく子育てできる環境をめざしているが、核家族化、子どもの問題行動、養護者自身の問題などにより子育てのしづらさを訴える養護者が多く、地域で孤立化する事例においては、児童虐待に発展する事例もある。背景には、若年出産・経済不安・成育歴等も考えられる。また、発達障がい(疑い)がある事例も多く、虐待に至る前に子育てのしづらさや発達障がい(疑い)がある親子が早期発見され、早期に療育が受け入れられる仕組みや支援してもらえる社会資源等の連携体制や整備が十分整っていないことが要因と考えられる。

課題＜上記要因を解消するために必要なこと＞

- ・他区にはない区独自施策を展開し、積極的に対内外に情報発信することで、東住吉区が「子育て環境抜群」であることをPRする。
- ・子育て層にとって東住吉区が「住みたい、住み続けたいまち」になるための課題等を的確に把握し、対策を講じる必要がある。
- ・乳幼児の子どもを抱える子育て家庭や子育てに不安や負担を感じている人が孤立しないように、子育てのしづらさや発達障がい(疑い)がある親子を早期発見し、早期に療育が受け入れられる仕組みづくりを、地域の関係機関や事業所と連携しながら実施できるようにするなど、状況に応じた適切な支援・相談・情報提供を行い、子育てに対し不安や負担の軽減を図る。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

自己評価

めざす成果及び戦略 1 - 1 【東住吉ゆめ応援プロジェクトの充実】

計画	めざす状態<概ね3～5年間を念頭に設定> ・東住吉区に住みたい、住み続けたいと思う子育て層の区民が増える。		戦略<中期的な取組の方向性> ・区内の地域資源(大学や商店街、企業等)と連携しながら、子育て層にとって関心の高い分野に特化した施策を区独自に展開する。	
	アウトカム<めざす状態を数値化した指標> ・「東住吉区に住みたい、住み続けたい」と思う子育て層(25歳～44歳)の区民の割合:平成32年度に90%以上 ・区の特長や地域実情に応じた施策・事業・イベント等があると感じる区民の割合:平成32年度に60%以上			
自己評価	戦略のアウトカムに対する有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す		課題 有効性が「イ」の場合は必須
	アウトカムの達成状況	前年度	個別	全体
	戦略の進捗状況	a:順調 b:順調でない		今後の対応方向 有効性が「イ」の場合は必須
	A:順調 B:順調でない			

具体的取組 1 - 1 - 1 【小学生英語交流の推進】

28決算額 4372千円 29予算額 3,665千円 30予算額 3670千円

計画	取組内容 ・区内在住の小学5,6年生25名を対象に6～9月にかけてサマー・イングリッシュ・キャンプ等を、11月～2月にかけて区内在住の小学3,4年生20名を対象に地域資源(商店街・大学等)と連携したイングリッシュ・スタディ・ツアーを実施し、英語力及び地域力を高める機会を提供。		業績目標(中間アウトカム) 外国語及び外国人に対する興味や関心が参加前より高まった参加小学生が8割以上 自分の住んでいるまちや地域に対する興味や関心が参加前より高まった参加小学生が8割以上 〔撤退基準〕 上記目標がいずれも5割を下回った場合は、事業を再構築する。	
	前年度までの実績 H26:52名応募、H27:45名応募、H28:49名応募 H29:小学5,6年生 26名 小学3,4年生 28名応募			
中間振り返り	業績目標の達成状況	:目標達成(見込) ( )取組は予定どおり進捗 ( )取組は予定どおり進捗していない :目標未達成(見込) ( )取組は予定どおり進捗 ( )取組は予定どおり進捗していない :撤退基準未達成		課題と改善策 左記に「、」、「x」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性	:有効 x:有効でないため取組を見直す :中間アウトカム未設定(未測定)		
自己評価	取組実績		課題 左記に「、」、「x」がある場合は必須	
	業績目標の達成状況		改善策 左記に「、」、「x」がある場合は必須	
	戦略に対する取組の有効性	:有効 x:有効でないため見直す :中間アウトカム未設定(未測定)		

具体的取組 1 - 1 - 2

【中学生海外派遣の推進】

28決算額 5068千円 29予算額 5141千円 30予算額 5141千円

計画	取組内容		業績目標（中間アウトカム）	
	区内在住の中学生7名を対象に、夏休み等の期間を利用して、ホームステイやボランティア活動などの海外留学体験（約3週間）を通じて、地域への愛着を高めるとともに、グローバル感覚を養う機会を提供。		派遣事業終了後もグローバル感覚を養い続けるため、新たな海外留学等により海外と関わり続けたいと思う派遣中学生全員 自分の住んでいるまちや地域に対する興味や関心が参加前より高まった派遣中学生全員 9月の発表会で「中学生の発表を聞いてよかった」と思う傍聴者の割合80%以上 【撤退基準】 の目標がいずれも半数を下回った場合及び の目標が50%以下の場合は、事業を再構築する。	
			前年度までの実績 H25:42名応募、H26:53名応募、H27:40名応募、H28:45名応募 H29:34名応募	
中間振り返り	業績目標の達成状況		課題と改善策 左記に「 <input type="checkbox"/> 」、「 <input type="checkbox"/> 」、「 <input type="checkbox"/> 」がある場合は必須	
	: 目標達成(見込) ( )取組は予定どおり進捗 ( )取組は予定どおり進捗していない : 目標未達成(見込) ( )取組は予定どおり進捗 ( )取組は予定どおり進捗していない : 撤退基準未達成			
	戦略に対する取組の有効性			
自己評価	取組実績		課題 左記に「 <input type="checkbox"/> 」、「 <input type="checkbox"/> 」、「 <input type="checkbox"/> 」がある場合は必須	
	業績目標の達成状況		改善策 左記に「 <input type="checkbox"/> 」、「 <input type="checkbox"/> 」、「 <input type="checkbox"/> 」がある場合は必須	
	: 目標達成 ( )取組は予定どおり実施 ( )取組を予定どおり実施しなかった : 目標未達成 ( )取組は予定どおり実施 ( )取組を予定どおり実施しなかった : 撤退基準未達成			
戦略に対する取組の有効性		: 有効 ×: 有効でないため見直す : 中間アウトカム未設定(未測定)		

めざす成果及び戦略 1 - 2 【子育て・教育支援の充実】

計画	めざす状態<概ね3～5年を念頭に設定>	戦略<中期的な取組の方向性>
	アウトカム<めざす状態を数値化した指標>	

自己評価	戦略のアウトカムに対する有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す	課題	有効性が「イ」の場合は必須
	アウトカムの達成状況	前年度 個別 全体		
	戦略の進捗状況	a:順調 b:順調でない	今後の対応方向	有効性が「イ」の場合は必須

具体的取組 1 - 2 - 1 【子育て支援の推進】

		28決算額	14294千円	29予算額	12119千円	30予算額	11,856千円
計画	取組内容	業績目標(中間アウトカム)					
		東住吉区子育て支援連絡会との協働による子育て施策の展開及び情報提供を行う。 東住吉区子育てOHえんフェスタの開催(年1回) 東住吉区子育てファミリー運動会(年1回) OHえん情報誌の作成・配布(毎月) 保存版の作成年間 約1500部 区内幼稚園・保育園・保育所・認定こども園・小学校の職員との学習会 乳幼児健診時に子育てOHえん情報保存版の配布や区社協配信のOHえんメールの周知などタイムリーな情報提供を行い、サービスの利用を促進。 子育て相談・訪問によるサービス 利用者支援専門員等による保育所資源やサービスの利用に関する相談・情報提供の拡充 3名の家庭児童相談員による養育者への相談体制の充実と虐待の予防と早期発見のための取組の強化 家庭での保育が一時的に困難になった乳幼児に対する、保育所等の実施施設における日中一時預かり(3ヶ所) 地域親子サロンを活用した地域妊産婦教室の開催 子どもの居場所ネットワークの推進					
中間振り返り	業績目標の達成状況	課題と改善策					
	戦略に対する取組の有効性	左記に「、」、「×」がある場合は必須					
自己評価	取組実績	課題					
	業績目標の達成状況	改善策					

具体的取組 1 - 2 - 2

【子育て力アップを応援する支援の推進】

28決算額 5555千円 29予算額 5445千円 30予算額 4,878千円

計画	取組内容	業績目標（中間アウトカム）
	子育て力アップ「キャッチ＆フォロー」の推進 早期発見 ・発達障がい(疑い)等子育てのしづらさを持つ親子を、M-チャット等を使用した問診票により1歳6ヶ月健診、3歳児健診(いずれも16回/年)、心理相談(12回/年)等で選定。 早期療育 ・子どもとの遊び方を学ぶ「すくすく教室」の実施(12回/年) ・子育てのコツを学ぶ「親育てのプログラム(2歳児用・4.5歳児用)」を実施(年間6クール) ・友達づくりや子育ての悩みなどを共有できる「交流の場」の構築及び地域で孤立しない相談対応の実施(2回/年) ・平日に参加しづらい保護者を対象に、土日に単発のパパセミナー、ママセミナーを年2回実施。 * 早期療育が受け入れられる仕組みとしての取組は、委託事業者と連携し実施(「すくすく教室」以外) ・子育て力アップ講座受講修了者による企画、自主的な取組活動の側面支援。 臨床心理士による乳幼児期の発達相談・支援体制の充実 【参考】 早期発見での想定数 1歳6ヶ月健診 1開設55人 M-チャット等でのフォロー人数11人/月 2歳児発達相談対象数...10人	「すくすく教室」参加者から「親育てのプログラム」(2歳児)への参加率60% 親育てのプログラムの満足度:80%以上 交流の場の参加者満足度:80%以上 【撤退基準】 及び、満足度が50%以下の場合かつ、の参加率が40%を下回る場合は、事業を再構築する。
	前年度までの実績	子育て力アップ「キャッチ＆フォロー」の推進 早期発見 ・1開設フォロー人数:平均15人/月 ・2歳児発達相談実施数 219人/年(いずれも28年度実績) 早期療育 ・すくすく教室 12回実施(4月～3月) 参加者数:平均14組/月 ・すくすく教室からプログラムへの参加率58.8% ・親育てのプログラム(29年度実績) 2歳児 参加数:延べ99人(4・5・8・9月)残り12・1月予定 参加満足度:(4・5・8・9月)100% 4.5歳児 参加数:延べ30人(6月)残り10月予定 参加満足度:100%(6月) ・交流の場:7組参加(7月)満足度100% 11月・2月実施予定 臨床心理士による乳幼児期の発達相談・支援体制の充実

中間振り返り	業績目標の達成状況	課題と改善策
	:目標達成(見込) ( )取組は予定どおり進捗 ( )取組は予定どおり進捗していない :目標未達成(見込) ( )取組は予定どおり進捗 ( )取組は予定どおり進捗していない :撤退基準未達成	左記に「 、 」、「×」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性	:有効 ×:有効でないため取組を見直す :中間アウトカム未設定(未測定)

自己評価	取組実績	課題
	業績目標の達成状況	改善策
	:目標達成 ( )取組は予定どおり実施 ( )取組を予定どおり実施しなかった :目標未達成 ( )取組は予定どおり実施 ( )取組を予定どおり実施しなかった :撤退基準未達成	左記に「 、 」、「×」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性	:有効 ×:有効でないため見直す :中間アウトカム未設定(未測定)

具体的取組 1 - 2 - 3

【ニーズに応じた学校への支援】

28決算額 10,078千円 29予算額 10,101千円 30予算額 9,616千円

計画	取組内容	業績目標（中間アウトカム）
	・各学校と連携し、子どもや保護者にとって魅力ある学校づくりに向けた取組等(学校選択制など)をサポート、発信。 ・発達障がい精通した障がい児支援員が、学校を通じて、発達障がい児やその保護者等に対するサポートを年間通して実施(4～3月)。 ・学校生活において多種多様な支援が必要な児童生徒へのサポートや、民間講師等を活用した学習支援等を実施。(4～3月)	サポーターや民間講師等を活用した学習支援等により子どもの学習支援に繋がったと感じる学校の割合 平成30年度 60%以上 【撤退基準】 上記目標が30%を下回る場合は、事業を再構築する。 前年度までの実績 学校選択制にかかる学校案内の作成・配付 障がい児支援員が随時小中学校・特別支援学級に訪問・助言・研修 民間講師等を活用した学習支援やサポーターの配置

中間振り返り	業績目標の達成状況	課題と改善策
	:目標達成(見込) ( )取組は予定どおり進捗 ( )取組は予定どおり進捗していない :目標未達成(見込) ( )取組は予定どおり進捗 ( )取組は予定どおり進捗していない :撤退基準未達成	左記に「 、 」、「×」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性	:有効 ×:有効でないため取組を見直す :中間アウトカム未設定(未測定)

自己評価	取組実績	課題
	業績目標の達成状況	改善策
	:目標達成 ( )取組は予定どおり実施 ( )取組を予定どおり実施しなかった :目標未達成 ( )取組は予定どおり実施 ( )取組を予定どおり実施しなかった :撤退基準未達成	左記に「 、 」、「×」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性	:有効 ×:有効でないため見直す :中間アウトカム未設定(未測定)

めざす成果及び戦略 1 - 3 【子育て層が創るまちづくり活動への支援】

計画	めざす状態<概ね3～5年を念頭に設定> 子育て層の区民が区政への関心を高め、主体的に区政運営に参画している。	戦略<中期的な取組の方向性> ・子育て層の区民にとって知りたい情報を容易に知ることができる環境にするため、SNSをフル活用して、子育て層に必要な情報を届ける。 ・子育て層にとって東住吉区が「住みたい、住み続けたいまち」になるための課題等を的確に把握し、子育て層の区民との協働による区政運営を実現する。
	アウトカム<めざす状態を数値化した指標> ・区役所の情報が伝わりやすくなったと感じる区民の割合：平成32年度に60%以上	

自己評価	戦略のアウトカムに対する有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す	課題 有効性が「イ」の場合は必須
	アウトカムの達成状況	前年度 個別 全体	
	戦略の進捗状況	a：順調 b：順調でない	今後の対応方向 有効性が「イ」の場合は必須
	A：順調 B：順調でない		

具体的取組 1 - 3 - 1 【区の広報媒体及び内容の充実】

28決算額 | 13,763千円 | 29予算額 | 15,809千円 | 30予算額 | 16,329千円

計画	取組内容 ・子育て層が見たいと思う情報の発信強化を目指した、区広報紙のリニューアル ・子育て層が広報紙を手に取りやすい配架場所の新規開拓(10箇所以上) ・子育て層に向けた情報発信サイト「LINE」の登録者数の増加 ・区広報紙やホームページと、区の公式SNS(LINE, facebook, instagramなど)を連携させ、相互の情報をクロスメディア手法により効果的に発信(各媒体から相互に情報を利用することが可能)	業績目標(中間アウトカム) 区広報紙がリニューアルされ、区政に対し関心が高まったと感じる割合：H30年度 50% 子育て層が、広報紙が読みやすくなったと感じる割合：H30年度 40% [撤退基準] が30%及び が20%をともに下回った場合は、事業を再構築する。
	前年度までの実績 ・区民ボランティア記者制度創設(区民による取材記事特集、25年4月～)。 ・ツイッターに区HPのURLを掲載し、区HPへ誘導。(24年4月～)。 ・東住吉区子育て応援ナビの開設(28年4月～)、改修(29年)。 ・子育て層に向けた情報発信サイト「LINE」の開設(29年4月)。 ・広報紙の子育てコーナー新設、記事情報のQRコードを積極的に活用。	

中間振り返り	業績目標の達成状況 : 目標達成(見込) ( ) 取組は予定どおり進捗 ( ) 取組は予定どおり進捗していない : 目標未達成(見込) ( ) 取組は予定どおり進捗 ( ) 取組は予定どおり進捗していない : 撤退基準未達成	課題と改善策 左記に「、」、「×」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性 : 有効 × : 有効でないため取組を見直す : 中間アウトカム未設定(未測定)	

自己評価	取組実績	課題 左記に「、」、「×」がある場合は必須
	業績目標の達成状況 : 目標達成 ( ) 取組は予定どおり実施 ( ) 取組を予定どおり実施しなかった : 目標未達成 ( ) 取組は予定どおり実施 ( ) 取組を予定どおり実施しなかった : 撤退基準未達成	改善策 左記に「、」、「×」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性 : 有効 × : 有効でないため見直す : 中間アウトカム未設定(未測定)	



具体的取組 1 - 3 - 2 【アンケートの充実】

		28決算額	2,551千円	29予算額	3,773千円	30予算額	2,100千円
計画	取組内容			業績目標（中間アウトカム）			
	・無作為抽出した区民1,500名に対するアンケート調査の実施 (3回、市民局実施分以外はWEBでの回答も可) ・オンラインアンケートの活用			アンケート調査の有効回収数 1回あたり 400名以上 【撤退基準】 有効回収数がすべての回で300名を下回る場合は、事業を再構築する。			
				前年度までの実績 ・無作為抽出した区民1,500名に対するアンケート(4回) ・企業・事業所アンケート(H28.3)			
中間振り返り	業績目標の達成状況		課題と改善策 左記に「 」、 「 x 」がある場合は必須				
	: 目標達成(見込) ( )取組は予定どおり進捗 ( )取組は予定どおり進捗していない : 目標未達成(見込) ( )取組は予定どおり進捗 ( )取組は予定どおり進捗していない : 撤退基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性		: 有効 x : 有効でないため取組を見直す : 中間アウトカム未設定(未測定)				
自己評価	取組実績			課題 左記に「 」、 「 x 」がある場合は必須			
	業績目標の達成状況			改善策 左記に「 」、 「 x 」がある場合は必須			
	: 目標達成 ( )取組は予定どおり実施 ( )取組を予定どおり実施しなかった : 目標未達成 ( )取組は予定どおり実施 ( )取組を予定どおり実施しなかった : 撤退基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性		: 有効 x : 有効でないため見直す : 中間アウトカム未設定(未測定)				

具体的取組 1 - 3 - 3 【区民等の参画と協働による区政運営】

		28決算額	3,773千円	29予算額	1,362千円	30予算額	575千円
計画	取組内容			業績目標（中間アウトカム）			
	・区政会議の開催(本会議3回、2部会各2回) ・広報媒体を活用した区政会議の意義や議事内容の区民への周知 ・新・東住吉区将来ビジョンの実現に向けた、区民が主役となるまちづくりプロジェクト(e-sumiなでしこ)のサポート(月1回) ・大阪城南女子短期大学との包括連携会議(1回) ・大学や企業等と連携した取組の促進			プロジェクトに参加した区民等の中で、区民が主体的に企画に取り組み、区役所は適切にサポートしてくれていると感じる参加者の割合: H30年度 60%以上 【撤退基準】 上記目標が30%を下回った場合、事業を再構築する。			
				前年度までの実績 ・区政会議 H25: 本会議2回、3部会各3回開催 H26: 本会議4回、2部会各3回開催 H27: 本会議3回、2部会各2回開催 H28: 本会議4回開催 H29: 本会議3回、2部会各2回開催予定 ・新将来ビジョン策定(H28) ・大阪城南女子短期大学との包括連携協定の締結(H28.1)及び包括連携会議の開催(H28.6)(H29.7) ・大阪市立大学との事業連携の協議の実施(H28.10)			
中間振り返り	業績目標の達成状況		課題と改善策 左記に「 」、 「 x 」がある場合は必須				
	: 目標達成(見込) ( )取組は予定どおり進捗 ( )取組は予定どおり進捗していない : 目標未達成(見込) ( )取組は予定どおり進捗 ( )取組は予定どおり進捗していない : 撤退基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性		: 有効 x : 有効でないため取組を見直す : 中間アウトカム未設定(未測定)				
自己評価	取組実績			課題 左記に「 」、 「 x 」がある場合は必須			
	業績目標の達成状況			改善策 左記に「 」、 「 x 」がある場合は必須			
	: 目標達成 ( )取組は予定どおり実施 ( )取組を予定どおり実施しなかった : 目標未達成 ( )取組は予定どおり実施 ( )取組を予定どおり実施しなかった : 撤退基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性		: 有効 x : 有効でないため見直す : 中間アウトカム未設定(未測定)				

具体的取組 1 - 3 - 4

【区の相談・調整機能の充実】

28決算額 1458千円 29予算額 1428千円 30予算額 1215千円

計画	取組内容		業績目標（中間アウトカム）
	区役所において、区民から相談や要望を受け付け、局、事業所などと連携し、迅速かつ適切に対応する。 ・市民の声：随時 ・法律相談（弁護士）：月4回 ・法律相談（司法書士）：月2回 ・税務・行政・不動産・就労相談：月1回 ・相続遺言帰化相談（行政書士）：月1回 ・若者・女性の就労等トータルサポート事業：月1回 ・行政連絡調整会議及び行政連絡調整会議小会議の開催（隔月）  職員の対応力の向上に向けたスキルアップ研修の実施 （区政編 改革の柱2 -ア） 「東住吉おもてなしプロジェクト」を継続実施し、各課を横断した全職員の意識向上の取組を推進		過去1年間に、区役所に日常生活に関する相談や要望を行った区民のうち、区役所が区における市政の総合窓口として適切に対応したと思う区民の割合：75%以上 【撤退基準】 上記目標が60%を下回る場合は、事業を再構築する。  前年度までの実績 市民の声（27年度237件）、法律相談（弁護士）：月4回、法律相談（司法書士）：月2回、税務・行政・不動産・就労相談：月1回、相続遺言帰化相談（行政書士）：月1回、 行政連絡調整会議及び行政連絡調整会議小会議（各6回） 庁舎周辺清掃の実施【毎週水曜日、年1回秋頃（大阪マラソンクリーンアップ大作戦）】 （区役所職員の対応力向上に向けたスキルアップ研修（全6回） タウンウォッチング研修（全2回）
中間振り返り	業績目標の達成状況		課題と改善策 左記に「 」、 「×」がある場合は必須
	: 目標達成(見込) ( ) 取組は予定どおり進捗 ( ) 取組は予定どおり進捗していない : 目標未達成(見込) ( ) 取組は予定どおり進捗 ( ) 取組は予定どおり進捗していない : 撤退基準未達成		
	戦略に対する取組の有効性	: 有効 × : 有効でないため取組を見直す : 中間アウトカム未設定(未測定)	
自己評価	取組実績		課題 左記に「 」、 「×」がある場合は必須
	業績目標の達成状況		改善策 左記に「 」、 「×」がある場合は必須
	: 目標達成 ( ) 取組は予定どおり実施 ( ) 取組を予定どおり実施しなかった : 目標未達成 ( ) 取組は予定どおり実施 ( ) 取組を予定どおり実施しなかった : 撤退基準未達成		
	戦略に対する取組の有効性		: 有効 × : 有効でないため見直す : 中間アウトカム未設定(未測定)

## 重点的に取り組む主な経営課題

### 経営課題2

#### 【誰もが安心して心豊かに暮らせるまちづくりの推進】

めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年間を念頭に設定＞

- ・大規模な自然災害発生時に、区民が防災の正しい知識に基づく備えを実践し自らの身を守り、地域住民が自ら救出救護・初期消火・避難行動要支援者の避難誘導・避難所開設などを行えるとともに、区役所が区災害対策本部としての機能を十分発揮し、地域や避難所との連携をスムーズに行うことで、被害を最小限にするまちなる。
- ・誰もが健康的で安心して心豊かに暮らしていけるように、地域のあらゆる力を集めて、あたたかなつながりがあり、誰もが“しあわせに”暮らせる、住みよいまちにする。

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

【防災】

- ・自助・共助ともに意味を理解している区民の割合 57.0%
- ・学校・各種団体等と連携して防災訓練等に取り組んでいる地域 14地域中:8地域
- ・地域防災リーダーの平均年齢 62.6歳
- ・地域防災リーダーの女性割合 20.9%
- ・有事の際の役割を認識している職員の割合 99.2%

「平成28年度第2回区民アンケート」結果

「自助」「共助」ともに理解している	57.0%
「自助」は理解している	17.0%
「共助」は理解している	1.3%
災害に対し、なにが備えをしている	70.5%
水や食料などを備蓄している	38.9%
非常持ち出し品を用意している	45.6%
家具等を固定している	17.5%
災害時の連絡方法等を確認している	27.3%

【防犯】東住吉区内における犯罪発生件数（大阪重点犯罪）

	大阪重点犯罪					特殊詐欺
	街頭犯罪					
	ひったくり	路上強盗	自動車盗	車上ねらい	部品ねらい	
平成28年	18件	5件	45件	451件	182件	23件
平成29年 (8月末現在)	17件	0件	14件	152件	63件	14件

- 【空家】区内の空家率23.8%（24区中1位）、区内の空家数18,510戸（24区中4位）（平成25年住宅・土地統計調査）
- 【福祉】平成27年と平成12年の東住吉区の高齢者の人口を比較すると、前期高齢者約1.1倍、後期高齢者約1.7倍に増。平成27年と平成12年の高齢夫婦世帯数・高齢単身世帯数を比較すると高齢夫婦世帯約1.1倍、高齢単身世帯約1.5倍に増。
- 【健康】当区の死亡率（12.7）は、年々増加（24区中3位）。悪性新生物（がん）を要因とした死亡率が24区中2位。（H28）
- ・がん検診・特定健康診査の受診率が低調
- 【認知症】東住吉区の高齢者、介護保険認定者（居宅）中、認知症と診断されている人（日常生活自立度 a以上）はH28年2,433人（30.0%）、H29年2,500人（31.1%） 大阪市全体ではH28年30.8% H29年31.2% である。施設入所者も含めるとH29年4,391人である。
- ・地域包括支援センター・ランチの高齢者総合相談件数の内、認知症疑いありの件数は、H27年度6,129件（相談者件数の27.8%）、平成28年度8,573件（同34.7%）と増加している。

計画

要因分析（現状・データから導かれる分析結果）＜めざすべき将来像と現状に差が生じる要因＞

- 【防災】自分や家族の命は自分で守るという「自助」の考えが十分に浸透していない。
- ・自分たちのまちは自分たちで守るという「共助」の意識が十分に浸透しておらず、担い手についても高齢化し、女性の参画も十分とはいえない。
- ・区災害対策本部の編成や各班の役割については認識が進んでいるが、実際の行動内容に関しては十分とはいえない。
- 【防犯】
- ・街頭犯罪発生件数は平成27年と比べ平成28年は減少した（1300件 1293件）が、防犯モデル区指定による重点的な対策で達成した平成25年の件数（1056件）を上回っている。平成28年以降は大阪府警により地域の犯罪情勢に即した犯罪抑止総合対策として重点犯罪が再設定され、近年増加している特殊詐欺が大阪重点犯罪に追加された。ひったくり・路上強盗と自動車関連犯罪の合計が平成29年8月末時点において、前年比-55%（-303件）となっている。減少傾向は全市的な傾向である。ただし、犯罪の起こりにくいまちであると考えられる区民の割合は低く、区民の防犯への関心が十分に高まっていないことが考えられる。
- 【空家】一戸建の戸数が多いこと、高齢化率が高いことから、今後いっそう空家率・数とも増え、まちの安全安心が脅かされる危険性がある。
- 【福祉】高齢化の進行で、高齢者の中で、介護や支援を必要とする人の割合が大きくなる後期高齢者が増。家族による支援が受けにくい人や世帯が増。
- ・外に出て活動することがなくなり、地域とのつながりが少なく、家庭内に閉じこもっている高齢者など、支援を必要としながら、社会的に孤立し、適切な支援につなげていない人々が多い。
- 【健康】がん検診、特定健康診査の受診率が全市平均より下回っている状況が、死亡率、とりわけがんの死亡率が高い要因と考えられる。
- 【認知症】高齢者人口の15%が認知症であるとされ、東住吉区では推計値5,642人となる。まだ1,251人が潜在している可能性がある。また、介護保険認定者中の認知症患者の43%が施設入所者であることからすると、「まちで暮らせている」状態ではない。認知症は早期発見・早期治療が必要な疾患であり、症状が進行すると社会的に孤立し、問題が複雑化しやすく在宅生活の継続が困難となる傾向がある。

課題＜上記要因を解消するために必要なこと＞

- 【防災】自分の力で減災に繋がる行動ができるよう、全区民に対し防災意識の向上を図ること。
- ・地域の力で減災に繋がる行動ができるよう、自主防災組織の機能強化を図ること。
- ・職員が災害時の役割と行動を理解できるよう職員研修、職員訓練を繰り返し実施すること。
- 【防犯】犯罪抑止のため、警察署、地域と連携し継続的に取り組むこと。
- ・区民の防犯への関心を高めること。
- 【空家】特定空家等の是正に向けて取組を進めるとともに、空家の利活用に向けた取組も合わせて進める必要がある。
- 【福祉】高齢化が一層進行し、高齢夫婦や高齢単身世帯が増えていることから、地域での見守りや支えあいの活動を一層推進する必要がある。
- ・社会的に孤立した人に対して、地域のなかで役割や居場所を見つけ、孤立状態に戻ることを防止するよう支援する取り組みも必要となっている。
- ・身近なところで気兼ねなく相談でき、必要な支援の的確につながるしくみを確立していくことが求められる。
- 【健康】区民自ら健康の保持増進に努め、生活習慣病予防、認知症予防のための活動を習慣化し、疾病予防のための特定検診やがん健診を受診するなど、意識を向上させる必要がある。
- 【認知症】高齢者自身が元気な段階から地域と関わりを持ち、認知症を予防すること。
- ・認知症になっても地域全体で支えあえるネットワークを保健・医療・福祉・介護の各関係機関と協働して構築すること。
- ・地域の見守りや気づきや情報を早期の相談・治療・介護につなぐ仕組みをつくること。

自己評価

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

めざす成果及び戦略 2 - 1 【東住吉区防災力の強化】

計画	めざす状態<概ね3～5年間で念頭に設定>		戦略<中期的な取組の方向性>	
	・防災・減災対策は自分の責務でもあることを理解している区民の割合を高める。 ・全地域で自主的・自律的な防災訓練ができています。 ・区役所職員が有事の際に初期初動ができる。		・区地域防災計画や区防災マップを全区民に認知してもらい取組みを進めるとともに、様々な機会において防災啓発活動を実施することで、区民全体の防災意識の向上を図る。 ・地域防災への女性や若年層の参画を促進し、地域住民の意向を反映した防災訓練の支援を行うとともに、地域に実状に応じてより実践的な避難所開設訓練や地区防災計画の策定・改訂に向けた支援等を行うことにより、自主防災組織の機能強化を図る。 ・区災害対策本部の役割を全職員に認識させる取組みを進めるとともに、初期初動及び災害応急対策の中核を担う4号動員職員を重点的に養成することにより、区役所全体の防災力の強化を図る。	
自己評価	アウトカム<めざす状態を数値化した指標> ・自らのことは自らで守るという「自助の考え方を理解している」区民の割合： <b>平成32年度</b> 末までに60%以上 ・年1回以上、自主的・自律的な防災訓練を実施している地域： <b>平成32年度</b> 末までに全地域(14地域) ・職員アンケートで「有事の際の役割を理解している」職員の割合： <b>平成32年度</b> 末までに100%		課題 有効性が「イ」の場合は必須	
	戦略のアウトカムに対する有効性 ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す	アウトカムの達成状況 前年度 個別 全体 A：順調 B：順調でない 戦略の進捗状況 a：順調 b：順調でない		今後の対応方向 有効性が「イ」の場合は必須

具体的取組 2 - 1 - 1 【家庭の防災力強化(自助)】

		28決算額	1,484千円	29予算額	494千円	30予算額	372千円
計画	取組内容		業績目標(中間アウトカム)				
	区民の防災意識を向上させる取組 ・防災マップ等のホームページや広報紙などでの情報発信(年2回)及び様々な催し等での配布(年5回) ・防災講演会などの防災イベントの開催(年1回以上) ・乳幼児健診等における防災啓発の実施(月3回) ・各小中学校の「防災・減災教育カリキュラム」に基づく防災研修・防災訓練等の支援(20校)		災害に対して備えをしている区民の割合：80%以上 【撤退基準】 上記目標が50%以下であれば、事業を再構築する。				
中間振り返り	業績目標の達成状況		課題と改善策 左記に「、」、「×」がある場合は必須				
	:目標達成(見込) ( )取組は予定どおり進捗 ( )取組は予定どおり進捗していない :目標未達成(見込) ( )取組は予定どおり進捗 ( )取組は予定どおり進捗していない :撤退基準未達成		前年度までの実績 ・防災マップ等の広報紙での情報発信(9月・3月) ・防災セミナー、防災イベントの開催(9月・2月) ・乳幼児健診における防災啓発の実施(47回) ・小中学校における防災研修等の実施支援(13校) ・地域の食事サービス・ふれあい喫茶での防災啓発(14地域・19回)				
自己評価	戦略に対する取組の有効性		課題 左記に「、」、「×」がある場合は必須				
	:有効 ×：有効でないため取組を見直す :中間アウトカム未設定(未測定)		改善策 左記に「、」、「×」がある場合は必須				
自己評価	取組実績		課題 左記に「、」、「×」がある場合は必須				
	業績目標の達成状況 :目標達成 ( )取組は予定どおり実施 ( )取組を予定どおり実施しなかった :目標未達成 ( )取組は予定どおり実施 ( )取組を予定どおり実施しなかった :撤退基準未達成		戦略に対する取組の有効性 :有効 ×：有効でないため見直す :中間アウトカム未設定(未測定)				

具体的取組 2 - 1 - 2 【地域の防災力強化(共助)】

		28決算額	1,798千円	29予算額	2,533千円	30予算額	1,242千円
計画	取組内容	業績目標(中間アウトカム)					
	自主防災組織の機能強化を図る取組 ・地域の自主的、自律的な防災訓練の支援(14地域) ・地域防災リーダー防災学習の実施 ・地区防災計画の策定・改訂に向けた支援(14地域) ・地域防災活動への女性の参画促進に向けた支援 ・各小中学校の「防災・減災教育カリキュラム」に基づく防災研修・防災訓練等の支援(20校) ・事業所等に対する災害への備えと地域との連携の呼びかけ ・各地域で自主的、自律的に取り組まれている防災訓練等に関する情報の発信	有事の際にどのように行動すべきか理解している地域防災リーダーの割合:H30年度 70%以上  【撤退基準】 上記目標が50%以下であれば、事業を再構築する。					
中間振り返り	業績目標の達成状況	課題と改善策 左記に「 」、「 」、「 × 」がある場合は必須					
	:目標達成(見込) ( )取組は予定どおり進捗 ( )取組は予定どおり進捗していない :目標未達成(見込) ( )取組は予定どおり進捗 ( )取組は予定どおり進捗していない :撤退基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性	:有効 × :有効でないため取組を見直す :中間アウトカム未設定(未測定)					
自己評価	取組実績	課題 左記に「 」、「 」、「 × 」がある場合は必須					
	業績目標の達成状況	改善策 左記に「 」、「 」、「 × 」がある場合は必須					
	戦略に対する取組の有効性	:有効 × :有効でないため見直す :中間アウトカム未設定(未測定)					

具体的取組 2 - 1 - 3 【区役所の防災力強化(公助)】

		28決算額	2,062千円	29予算額	579千円	30予算額	811千円
計画	取組内容	業績目標(中間アウトカム)					
	区災害対策本部の機能強化を図る取組 ・総合防災訓練・震災総合訓練・緊急区本部員訓練・職員防災研修・直近参集者研修などにおいて、より実働的な内容を盛り込み、職員の意識を高める取組を実施(それぞれ年1回以上) ・初期初動マニュアルの4号動員職員への配付	非常災害時の参集基準や区内の避難場所を理解している職員の割合:95%  【撤退基準】 上記目標が85%以下であれば、事業を再構築する。					
中間振り返り	業績目標の達成状況	課題と改善策 左記に「 」、「 」、「 × 」がある場合は必須					
	:目標達成(見込) ( )取組は予定どおり進捗 ( )取組は予定どおり進捗していない :目標未達成(見込) ( )取組は予定どおり進捗 ( )取組は予定どおり進捗していない :撤退基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性	:有効 × :有効でないため取組を見直す :中間アウトカム未設定(未測定)					
自己評価	取組実績	課題 左記に「 」、「 」、「 × 」がある場合は必須					
	業績目標の達成状況	改善策 左記に「 」、「 」、「 × 」がある場合は必須					
	戦略に対する取組の有効性	:有効 × :有効でないため見直す :中間アウトカム未設定(未測定)					

めざす成果及び戦略 2 - 2 【犯罪のない安心できるまちづくりの推進】

計画	めざす状態<概ね3～5年間を念頭に設定> 犯罪がない、安全で安心して暮らせるまちになる。		戦略<中期的な取組の方向性> ・犯罪類型に応じた迅速で効果的な対策を警察署、地域と連携して継続的に取組む。 ・犯罪を未然に防ぐため、啓発活動及び情報発信を行い、区民の防犯への関心を高める。		
	アウトカム<めざす状態を数値化した指標> 犯罪のない安心できるまちであると考える区民の割合:平成32年度までに60%以上				
自己評価	戦略のアウトカムに対する有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す	課題 有効性が「イ」の場合は必須		
	アウトカムの達成状況	前年度	個別	全体	
			今後の対応方向 有効性が「イ」の場合は必須		
			A:順調 B:順調でない		
戦略の進捗状況		a:順調 b:順調でない			

具体的取組 2 - 2 - 1 【犯罪類型に応じた対策】

28決算額 8,721千円 29予算額 9,452千円 30予算額 1,658千円

計画	取組内容 ・ひったくり、路上強盗対策 ひったくり防止カバー取付キャンペーン(60回) ・自転車盗、車上ねらい、部品ねらい、オートバイ盗、自動車盗対策 シリンダー錠取付キャンペーン(20回) ・子どもをねらった犯罪対策 子ども安全講習の実施(年85回) ・振り込み詐欺対策 街頭やコンビニ等での啓発(年金支払日、年6回) ・犯罪全般への対策 青色防犯パトロールカー、自転車による巡回(随時) 広報紙(増ページ等)、ラビット通信、HP、ツイッター等による情報発信(随時)		業績目標(中間アウトカム) 区役所が警察署、地域と連携して実施する防犯に関する取組が、犯罪抑止に役立つと考える区民の割合 80%以上  [撤退基準] 上記目標が50%に達しない場合は、事業を再構築し、取組を強化する。  前年度までの実績 ひったくり防止カバー取付キャンペーン(60回) シリンダー錠取付キャンペーン(20回) 通勤時間帯における女性への啓発(随時) 子ども安全講習の実施(年85回) 防犯カメラの設置(20台) 青色防犯パトロールカー、自転車による巡回(随時) 広報紙、ラビット通信、HP、ツイッター等による情報発信(随時)	
	業績目標の達成状況 :目標達成(見込) ( )取組は予定どおり進捗 ( )取組は予定どおり進捗していない :目標未達成(見込) ( )取組は予定どおり進捗 ( )取組は予定どおり進捗していない :撤退基準未達成		課題と改善策 左記に「 」、「 」、「×」がある場合は必須	
自己評価	戦略に対する取組の有効性	:有効 ×:有効でないため取組を見直す :中間アウトカム未設定(未測定)	課題 左記に「 」、「 」、「×」がある場合は必須	
	取組実績			
自己評価	業績目標の達成状況	改善策 左記に「 」、「 」、「×」がある場合は必須		
	戦略に対する取組の有効性	:有効 ×:有効でないため見直す :中間アウトカム未設定(未測定)		

めざす成果及び戦略 2 - 3 【魅力向上に向けたまちづくりの推進】

計画	めざす状態<概ね3～5年間を念頭に設定> ・不安を感じる区民が減り、地域が活性化し、まちの魅力が向上する。	戦略<中期的な取組の方向性> ・エリア魅力を高めるよう、計画的に進める。 ・特定空家等の是正及び空家の適正管理や利活用の促進等を総合的に進める。
	アウトカム<めざす状態を数値化した指標> ・特定空家等の解体や補修等による是正が平成32年度までに30件以上 ・空家に対する不安を感じる区民の割合が平成32年度までに平成28年度(18.4%)比で50%減 ・まちに魅力を感じる区民の割合が平成32年度までに80%以上	

自己評価	戦略のアウトカムに対する有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す	課題	有効性が「イ」の場合は必須	
	アウトカムの達成状況	前年度 個別 全体			
				今後の対応方向	有効性が「イ」の場合は必須
		A:順調 B:順調でない			
	戦略の進捗状況	a:順調 b:順調でない			

具体的取組 2 - 3 - 1 【地域活性化に向けた取組の推進】

		27決算額	円	29予算額	15,837千円	30予算額	6,789千円
計画	取組内容	業績目標(中間アウトカム) 特定空家等の解体や補修等による是正件数 4件 空家に対する漠然とした不安を感じる区民の割合:前年度比10%減 まちの魅力を知る機会が増えたと感じる区民の割合 50%以上 【撤退基準】 が2件、 が前年度比10%増、 が30%未満となった場合は、事業を再構築する。					
		前年度までの実績 業績目標 29年度 10.8% ・空き家活性化サポーター制度の策定 ・事業者向け説明会の開催(H29.8) ・事業者向けまちあるきの開催(H29.10)(2回) ・所有者向け説明会の開催(H29.11予定) ・マーケット・サウンディング調査の実施(平成29年5～8月) ・東住吉区矢田南部地域まちづくりビジョンの策定(平成30年3月予定)					
中間振り返り	業績目標の達成状況	課題と改善策 左記に「 <input type="checkbox"/> 」、「 <input type="checkbox"/> 」、「 <input type="checkbox"/> 」がある場合は必須					
	戦略に対する取組の有効性	:有効 ×:有効でないため取組を見直す :中間アウトカム未設定(未測定)					
自己評価	取組実績	課題 左記に「 <input type="checkbox"/> 」、「 <input type="checkbox"/> 」、「 <input type="checkbox"/> 」がある場合は必須					
	業績目標の達成状況	改善策 左記に「 <input type="checkbox"/> 」、「 <input type="checkbox"/> 」、「 <input type="checkbox"/> 」がある場合は必須					
	戦略に対する取組の有効性	:有効 ×:有効でないため見直す :中間アウトカム未設定(未測定)					

めざす成果及び戦略 2 - 4 【健康で心豊かに暮らせるまちづくりの推進】

計画	めざす状態<概ね3～5年間を念頭に設定>		戦略<中期的な取組の方向性>		
	・真に支援が必要な高齢者・障がい者等「社会的援護を要する人々」に対する区民の自主的な地域福祉活動への支援を行うことにより、住民の福祉マインドを醸成しており、「住民による自律的な地域運営」ができている。 ・自分の健康は自分で守り、区民みんなが健康づくりに取組んでいる。 ・区民自ら、生活習慣改善が認知症予防に繋がることに気づき、予防のため活動の習慣化と認知症等になった区民、その家族を理解でき、支援できる地域でのしくみづくりに区民と地域の関係機関と協働して取組み、健康で安心して暮らせている。		・多様な“困りごと”に、迅速・的確に対応していくための、「その人が話をしやすいところで相談すれば、的確な支援につながるしくみ」をつくる。 ・地域福祉のネットワークとして再構築された「地域支援システム」により、新たなニーズに対応するしくみや体制を充実することで、地域で行われている福祉活動を、専門的に支援する機能を強化する。また、地域のニーズを早期に発見し、的確な支援につないで連携して問題解決をすすめるとともに、必要に応じて新たな事業や施策を提案していくしくみを充実する。 ・すこやか大阪21(第2次後期)計画の理念のもと、区民の主体的な活動と行政、企業等が協力して、地域の特性に応じた健康づくりを推進する。 ・関係機関と連携して、生活習慣病、認知症予防に取り組む。 ・多世代交流を通して、子ども達やその保護者に高齢者や認知症について理解が深められ、地域支援のしくみづくりを行う。		
自己評価	アウトカム<めざす状態を数値化した指標>		課題		
	・身近な地域の中で、「声かけ」、「見守り」、「助け合い」、「支え合い」を実感している区民の割合：平成32年度までに60%以上 ・東住吉区のがん検診受診率の前年度比伸び率が市平均の前年度比伸び率を上回る(平成34年度) ・特定健診の東住吉区の受診率が前年度を上回る(平成34年度) ・3年後(「はつらつ脳活性化元気アップ講座」参加者対象(平成31年度)体力の維持・増進出来た人を20%以上にする。 認知能力の維持・増進出来た人を10%以上にする。		有効性が「イ」の場合は必須  今後の対応方向 有効性が「イ」の場合は必須		
戦略のアウトカムに対する有効性		ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す			
アウトカムの達成状況		前年度	個別		全体
		A：順調 B：順調でない			
戦略の進捗状況		a：順調 b：順調でない			

具体的取組 2 - 4 - 1 【福祉相談のためのネットワークの強化】

28決算額 31,146千円 29予算額 35,837千円 30予算額 46,666千円

計画	取組内容		業績目標<中間アウトカム>	
	・小学校区ごとに設置した地域相談窓口地域福祉サポーターを配置し、適切な支援につなげられるよう、相談対応を実施。(14地域) また、地域相談窓口の認知度を高めることにより、「地域の駆け込み寺」となるよう、広報媒体を活用し周知。 ・地域との関わり等を拒む孤立死リスクが高い要援護者に対して、見守り支援ネットワーク(福祉専門職)が、訪問や地域の見守り活動等へのつなぎ、ライフライン事業者等からの通報による安否確認を実施。 ・「物品等の堆積による不良な状態」を生み出している、あるいは生み出す可能性の高い人に対し、専門的知識を有するソーシャルワーカー(1名)が、福祉サービスや社会保障制度の利用相談や関係機関との連絡調整等、住居環境の健全化に向けた支援を実施。		「あなたやご家族は、健康や福祉・介護のことで困ったときの相談先として、『家族・親族』以外にも地域等に相談できる窓口があり満足している」と感じている区民の割合：40%以上  [撤退基準] 上記目標の割合が20%以下であった場合、事業を再構築する。  前年度までの実績 地域福祉サポーターの配置(14地域) 見守り支援ネットワーク(福祉専門職)の配置 住居環境の健全化にむけた支援員(ソーシャルワーカー)の配置	
中間振り返り	業績目標の達成状況		課題と改善策	
	:目標達成(見込) ( )取組は予定どおり進捗 ( )取組は予定どおり進捗していない :目標未達成(見込) ( )取組は予定どおり進捗 ( )取組は予定どおり進捗していない :撤退基準未達成		左記に「、」、「x」がある場合は必須	
戦略に対する取組の有効性		:有効 x:有効でないため取組を見直す :中間アウトカム未設定(未測定)		
自己評価	取組実績		課題	
	業績目標の達成状況		改善策	
		左記に「、」、「x」がある場合は必須		
		:目標達成 ( )取組は予定どおり実施 ( )取組を予定どおり実施しなかった :目標未達成 ( )取組は予定どおり実施 ( )取組を予定どおり実施しなかった :撤退基準未達成		
戦略に対する取組の有効性		:有効 x:有効でないため見直す :中間アウトカム未設定(未測定)		



具体的取組 2 - 4 - 2 【生活習慣病予防の推進】

		28決算額	576千円	29予算額	905千円	30予算額	884千円
計画	取組内容	業績目標（中間アウトカム）					
	・地域健康講座(329回)時に、東住吉区のがんでの死亡率、生活習慣病発生数などのデータを活用し、健診の必要性の啓発とがん予防の生活習慣病指導(禁煙指導を含む)の実施。 ・食品や環境衛生事業者(理容所等)との連携によるがん検診・特定健康診査の受診勧奨の実施。 ・食育の日(12回)、乳幼児健診(32回)、食品衛生講習会(12回)、健康展(10月)、食育フェスタ(2月)、地域健康講座(307回)開催時、がん検診・特定健康診査の受診勧奨の実施。	・がん検診・特定健康診査受診率が平成28年度を上回る。 【撤退基準】 すべてのがん検診・特定健康診査受診率が平成28年度を上回ることができなかった場合、事業を再構築する。					
	前年度までの実績	・がん検診受診率(%) (H28) ・胃がん2.7、大腸がん6.1、肺がん3.4、子宮頸がん16.3、乳がん13.5 ・特定健康診査受診率 22.7%(H28)					
中間振り返り	業績目標の達成状況	課題と改善策 左記に「 」、「 」、「 × 」がある場合は必須					
	:目標達成(見込) ( )取組は予定どおり進捗 ( )取組は予定どおり進捗していない :目標未達成(見込) ( )取組は予定どおり進捗 ( )取組は予定どおり進捗していない :撤退基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性	:有効 × :有効でないため取組を見直す :中間アウトカム未設定(未測定)					
自己評価	取組実績	課題 左記に「 」、「 」、「 × 」がある場合は必須					
	業績目標の達成状況	改善策 左記に「 」、「 」、「 × 」がある場合は必須					
	:目標達成 ( )取組は予定どおり実施 ( )取組を予定どおり実施しなかった :目標未達成 ( )取組は予定どおり実施 ( )取組を予定どおり実施しなかった :撤退基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性	:有効 × :有効でないため見直す :中間アウトカム未設定(未測定)					

具体的取組 2 - 4 - 3 【はつらつ脳活性化元気アップの推進】

		28決算額	706千円	29予算額	1,187千円	30予算額	1015千円
計画	取組内容	業績目標（中間アウトカム）					
	1)人材(リーダー)の育成 「はつらつ脳活性化元気アップリーダー養成講座」の開催 ・自分の健康、地域を元気にする意識啓発と技術取得のための講座開催(年1回、8回コース600名受講) 2)リーダー活動の拡充 「はつらつ脳活性化元気アップ講座」の開催 ・リーダーが中心となり、各地域で健康づくりから認知症予防の講座開催 ・4地域の包括圏域での講座を開催し、地域住民の交流の輪を広げ、顔が見える関係づくりも行い、災害への平常時の活動に繋げる多世代交流の実施 ・高齢者や認知症に対する理解を深め、地域支援のしくみづくりの一手法として、区役所、社協、包括、学校医、キャラバンメイトとリーダーが連携し、小学5年生に、講話や語り部、昔の遊びの体験学習を実施(1~2校) ・育成した子どもたちが夏休みや冬休みの同講座に参加、交流	1)リーダー育成数 20名 2)リーダー活動の拡充 ・講座参加者の満足度 60%以上 ・小学校開催時のリーダー等の満足度 60%以上 ・育成した子どもたちが同講座で交流(2か所以上)					
	【撤退基準】 1)10名以下の場合、事業を再構築する。 2)リーダー活動の拡充。 の満足度30%かつ の満足度30%以下の場合、事業を再構築する。	前年度までの実績					
中間振り返り	業績目標の達成状況	課題と改善策 左記に「 」、「 」、「 × 」がある場合は必須					
	:目標達成(見込) ( )取組は予定どおり進捗 ( )取組は予定どおり進捗していない :目標未達成(見込) ( )取組は予定どおり進捗 ( )取組は予定どおり進捗していない :撤退基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性	:有効 × :有効でないため取組を見直す :中間アウトカム未設定(未測定)					
自己評価	取組実績	課題 左記に「 」、「 」、「 × 」がある場合は必須					
	業績目標の達成状況	改善策 左記に「 」、「 」、「 × 」がある場合は必須					
	:目標達成 ( )取組は予定どおり実施 ( )取組を予定どおり実施しなかった :目標未達成 ( )取組は予定どおり実施 ( )取組を予定どおり実施しなかった :撤退基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性	:有効 × :有効でないため見直す :中間アウトカム未設定(未測定)					

## 重点的に取り組む主な経営課題

### 経営課題3

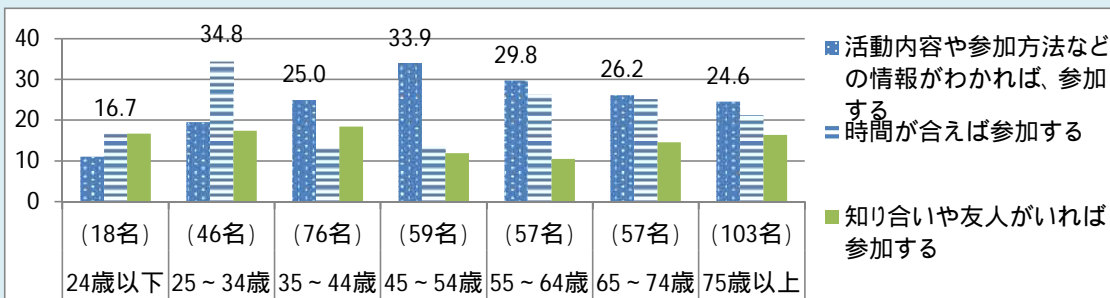
【みんながつながるまちづくりの推進】

めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年間を念頭に設定＞

多様化・複雑化する地域課題の解決を図るべく、住民や地域団体、企業、NPO等様々な団体や幅広い年代の区民がまちに愛着と関心を持ち、つながりあうことで、豊かなコミュニティが醸成され、自らの地域のことは自らの地域が決めるという意識のもと、相互に理解し信頼しあいながら協働するまちになる。

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

- ・地域活動に参加したことがある区民の割合 23.3% (平成29年度 区民アンケート)
- ・(地域活動に参加していない区民を対象に)地域活動に参加していない理由( " )
  - 「時間の都合などにより参加できていない」区民の割合 23.3%
  - 「参加方法がわからない」区民の割合 7.2%
  - 「どんな活動をしているかわからないから」区民の割合 15.4%



- 【福祉】・平成27年と平成12年の東住吉区の高齢者の人口を比較すると、前期高齢者約1.1倍、後期高齢者約1.7倍に増。平成27年と平成12年の高齢夫婦世帯数・高齢単身世帯数を比較すると高齢夫婦世帯約1.1倍、高齢単身世帯約1.5倍に増。
- ・日常生活で困ったとき、何らかの助けを望んでいる区民の割合 56.2% (東住吉区内での交流・ボランティア活動に関する調査(H26.7実施))
- ・有償でも無償でもどちらでもよいのでボランティアに助けてほしいと思う区民の割合 45.4% ( " )
- ・有償による助け合い活動「とんずみサポート」の認知度 11.9% (平成29年度第1回区民アンケート)

要因分析（現状・データから導かれる分析結果）＜めざすべき将来像と現状に差が生じる要因＞

- ・地域活動に参加する区民を増やすには、どの年代においても「活動内容や参加方法などの情報がわかれば参加する」という区民をいかに取り込むことができるかにかかっており、同区民を取り込むことにより、地域活動に参加する区民が5割近くに達することから、地域活動に参加してもいいと考えている区民の手元にいかに情報が届けられるかが喫緊の課題である。
- ・高齢化の進行で、高齢者の中で、介護や支援を必要とする人の割合が大きくなる後期高齢者が増。家族による支援が受けにくい人や世帯が増。
- ・外に出て活動することがなくなり、地域とのつながりが少なく、家庭内に閉じこもっている高齢者など、支援を必要としながら、社会的に孤立し、適切な支援につながっていない人々が多い。
- ・日常生活での“困りごと”に対し、何らかの手助けを必要としている人が多数いる。
- ・日常生活で“困っていること”を解消する仕組みを構築したが、認知度がまだまだ低い。

課題＜上記要因を解消するために必要なこと＞

- ・多様化し、複雑化する地域課題を解決し、まちの活力・魅力を向上させるためには、行政だけでなく、より多くの区民や様々な活動主体のまちづくり活動への参画が欠かせず、まちへの関心・愛着を高め、まちづくり活動への参画を促すべく、地域活動に関する効果的な発信や交流の場の提供等を行う。
- ・高齢化がいつそう進行し、高齢夫婦や高齢単身世帯が増えていることから、地域での見守りや支えあいの活動を一層推進していく必要がある。
- ・身近なところで気兼ねなく相談でき、必要な支援に的確につながるしくみを確立していくことが求められる。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

直  
接  
評  
価

めざす成果及び戦略 3 - 1 【東住吉つながりプログラムの充実】

計画	めざす状態<概ね3～5年を念頭に設定> ・校区等地域を越えたまちづくりに関する活動が、地域団体や区民など様々な活動主体がつながることで活発に行われるとともに、地域活動をより多くの区民が知り、参加することで地域コミュニティが活性化する。 ・真に支援が必要な高齢者・障がい者等「社会的援護を要する人々」に対する区民の自主的な地域福祉活動への支援を行うことにより、住民の福祉マインドを醸成しており、「住民による自律的な地域運営」ができて いる。	戦略<中期的な取組の方向性> ・校区等地域を越えたまちづくりに関する活動をサポートし、情報発信を強化することで、区民のまちづくり活動への関心を高め、参加を促す。 ・日常の家事や力仕事、留守にするときの子どもの見守りなど、日常生活でちょっと手伝ってほしいことや、地域で生活していくうえでの“困りごと”などを、おたがいさまの意識で支えあえるよう、身近な地域でつなぐしくみづくり(有償型の活動も含めて)を推進する。 ・地域の方々による自主的な福祉活動推進の機運を高め、新たな地域福祉活動の担い手を発掘する。
	アウトカム<めざす状態を数値化した指標> ・校区等地域を越えたまちづくりに関する活動が、地域団体や市民、NPO、企業など様々な活動主体の連携・協働により進められていると感じている区民の割合:平成32年度に50%以上 ・身近な地域の中で、「声かけ」、「見守り」、「助け合い」、「支え合い」を実感している区民の割合:平成32年度までに60%以上	

自己評価	戦略のアウトカムに対する有効性	A:有効であり、継続して推進 I:有効でないため、戦略を見直す	課題	有効性が「I」の場合は必須
	アウトカムの達成状況	前年度 個別 全体		
	戦略の進捗状況	a:順調 b:順調でない	今後の対応方向	有効性が「I」の場合は必須
		A:順調 B:順調でない		

具体的取組 3 - 1 - 1 【区民相互の交流活動へのサポート】

28決算額 6,790千円 | 29予算額 6,790千円 | 30予算額 6,673千円

計画	取組内容 様々な地域団体や企業等の参画のもと地域ニーズに対応した手法で事業を実施し、区民相互の交流活動をサポートする。 ・区民フェスティバルの実施(10月) ・区民スポーツイベント等の開催(4～3月) ・区文化祭の開催(12月)	業績目標(中間アウトカム) 参加者アンケートで「次も参加したい」と答えた割合:60%以上 (撤退基準) 上記目標の割合が40%未満の場合は、事業を再構築する。
		前年度までの実績 ・区民フェスティバルの実施(10月) 参画団体数 36団体(H24)、52団体(H25)、53団体(H26) 62団体(H27)、62団体(H28)、雨天中止(H29) 区主導で実行委員会を立ち上げ、ブースとステージ参加者を公募し、いずれも枠を超えた応募があったが平成29年度は雨天中止となった。 ・区民スポーツイベント等の開催(4～3月) ・区文化祭の開催(12月)

中間振り返り	業績目標の達成状況		課題と改善策	左記に「 <b>、</b> 」、「 <b>、</b> 」、「 <b>×</b> 」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性	・有効 ×:有効でないため取組を見直す :中間アウトカム未設定(未測定)		

自己評価	取組実績	課題	左記に「 <b>、</b> 」、「 <b>、</b> 」、「 <b>×</b> 」がある場合は必須
	業績目標の達成状況	改善策	左記に「 <b>、</b> 」、「 <b>、</b> 」、「 <b>×</b> 」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性	・有効 ×:有効でないため見直す :中間アウトカム未設定(未測定)	

具体的取組 3 - 1 - 2

【あらゆる世代が参加する生涯学習活動の推進】

28決算額 4,356千円 29予算額 4,002千円 30予算額 3,518千円

計画	取組内容	業績目標（中間アウトカム）
	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育て世代も参加しやすくなるよう、一時保育付や子ども・親子向けの区主催生涯学習講座を実施</li> <li>区内の生涯学習関連施設が持つ特性を活用した、次世代を担う子どもたちの学びやまちづくり活動に関わるきっかけづくりイベント(のびのびワクワク体験広場)を実施(11月)</li> <li>区民が専門的な知識を学び幅広い学習ができるよう、区内大学等と共催で講座を実施(8月)</li> <li>生涯スポーツの振興に資するため、区内の市立小・中学校の体育施設を学校教育に支障のない範囲で地域に開放(20校)</li> </ul>	区主催の講座において「次も参加したい」と答えた参加者の割合：70%以上 [撤退基準] 上記目標の割合が50%未満の場合は、事業を再構築する。
	前年度までの実績	
	一時保育付や子どもも参加できる区主催生涯学習講座の実施(7,8,10,3月)、大学公開講座(8月)の開催 のびのびワクワク体験広場(11月)・区民大学講座(12月)の実施 学校体育施設開放(20校)	

中間振り返り	業績目標の達成状況	課題と改善策
	:目標達成(見込) ( )取組は予定どおり進捗 ( )取組は予定どおり進捗していない :目標未達成(見込) ( )取組は予定どおり進捗 ( )取組は予定どおり進捗していない :撤退基準未達成	左記に「 、 」、「×」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性	:有効 × :有効でないため取組を見直す :中間アウトカム未設定(未測定)

自己評価	取組実績	課題
	業績目標の達成状況	改善策
	:目標達成 ( )取組は予定どおり実施 ( )取組を予定どおり実施しなかった :目標未達成 ( )取組は予定どおり実施 ( )取組を予定どおり実施しなかった :撤退基準未達成	左記に「 、 」、「×」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性	:有効 × :有効でないため見直す :中間アウトカム未設定(未測定)

具体的取組 3 - 1 - 3

【子育て支援の推進】(再掲)

28決算額 14,294千円 29予算額 12,119千円 30予算額 11,856千円

計画	取組内容	業績目標（中間アウトカム）
	<ul style="list-style-type: none"> <li>東住吉区子育て支援連絡会との協働による子育て施策の展開及び情報提供を行う。</li> <li>東住吉区子育てOHえんフェスタの開催(年1回)</li> <li>東住吉区子育てファミリー運動会(年1回)</li> <li>OHえん情報誌の作成・配布(毎月) 保存版の作成年間 約1500部</li> <li>区内幼稚園・保育園・保育所・認定こども園・小学校の職員との学習会</li> <li>乳幼児健診時に子育てOHえん情報保存版の配布や区社協配信のOHえんメールの周知などタイムリーな情報提供を行い、サービスの利用を促進。</li> <li>子育て相談・訪問によるサービス</li> <li>利用者支援専門員等による保育所資源やサービスの利用に関する相談・情報提供の拡充</li> <li>3名の家庭児童相談員による養育者への相談体制の充実と虐待の予防と早期発見のための取組の強化</li> <li>家庭での保育が一時的に困難になった乳幼児に対する、保育所等の実施施設における日中一時預かり(3ヶ所)</li> <li>地域親子サロンを活用した地域妊産婦教室の開催</li> </ul>	東住吉区子育てOHえんフェスタの開催時に実施するアンケート調査による満足度:95%以上 [撤退基準] 上記の目標が50%を下回る場合は、事業を再構築する"
	前年度までの実績	
	・東住吉区子育てOHえんフェスタの参加者 H22年(1回目)274人 H23年 台風で中止 H24年(2回目) 384人 H25年(3回目)407人 H26年(4回目)431人 H27年(5回目) 552人 H28年 (6回目) 862人 H29年 (7回目) 約800人 ・子育てOHえん情報誌の配架約100か所(主要4駅)毎月 2,600部 (昨年より約35箇所増、約600部増刷) ・区広報誌の増ページで子育てマップ年1回発行(H29年8月) ・家庭児童相談員3名による相談体制 ・一時預かり(3ヶ所) ・地域親子サロンを活用した地域妊産婦教室への参加数 平成28年度425人(年間28回実施、平成27年度384人)	

中間振り返り	業績目標の達成状況	課題と改善策
	:目標達成(見込) ( )取組は予定どおり進捗 ( )取組は予定どおり進捗していない :目標未達成(見込) ( )取組は予定どおり進捗 ( )取組は予定どおり進捗していない :撤退基準未達成	左記に「 、 」、「×」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性	:有効 × :有効でないため取組を見直す :中間アウトカム未設定(未測定)

自己評価	取組実績	課題
	業績目標の達成状況	改善策
	:目標達成 ( )取組は予定どおり実施 ( )取組を予定どおり実施しなかった :目標未達成 ( )取組は予定どおり実施 ( )取組を予定どおり実施しなかった :撤退基準未達成	左記に「 、 」、「×」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性	:有効 × :有効でないため見直す :中間アウトカム未設定(未測定)

具体的取組 3 - 1 - 4

【地域福祉における区民相互の助け合いへの支援】

28決算額 19,076千円 29予算額 19,253千円 30予算額 11,630千円

計画	取組内容	業績目標（中間アウトカム）
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・くらしにおけるちょっとした困りごとについて、地域で気軽に支えあう、有償による助け合い活動「とんずみサポート」の周知・推進</li> <li>・地域住民のボランティア活動への参加促進に資する普及啓発</li> <li>・地域におけるボランティア活動のきっかけとなる交流（体験型の講座等）</li> <li>・高齢者の健康増進と孤独感の解消、地域社会との交流を目的に、ボランティアが在宅のひとり暮らし高齢者や寝たきり高齢者等に、地域施設での会食等の世話を実施（14地域、総事業費の1/2補助）。</li> <li>・地域における平時の見守りと災害時の避難支援への備えを強化するため、「要援護者名簿」の更新、活用。</li> <li>・認知症高齢者等徘徊者の保護のため、行方不明者情報を協力者にメール配信するシステムの活用。</li> </ul>	協力会員の登録数を前年度比で10%増 東住吉区ボランティア・市民活動センターのボランティア（無償）の新規登録者増加率：9%以上 高齢者食事サービスの利用者アンケートで「満足している」と答えた参加者の割合：70%以上 【撤退基準】 が前年度比10%増未満、 が9%未満、 が60%以下の場合は、事業を再構築する。
	前年度までの実績	・有償による助け合い活動「とんずみサポート」を運用 ・ボランティア活動への参加促進に関する啓発・研修を実施 ・高齢者食事サービスの実施（14地域） ・高齢者、障がい者（身体）を対象に「要援護者名簿」を作成 ・認知症高齢者等徘徊者を保護するシステムを運用

中間振り返り	業績目標の達成状況	課題と改善策
	目標達成(見込) ( ) 取組は予定どおり進捗 ( ) 取組は予定どおり進捗していない 目標未達成(見込) ( ) 取組は予定どおり進捗 ( ) 取組は予定どおり進捗していない 撤退基準未達成	左記に「 」、「 」、「 × 」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性	・有効 × : 有効でないため取組を見直す ・中間アウトカム未設定(未測定)

自己評価	取組実績	課題
	業績目標の達成状況	改善策
	目標達成 ( ) 取組は予定どおり実施 ( ) 取組を予定どおり実施しなかった 目標未達成 ( ) 取組は予定どおり実施 ( ) 取組を予定どおり実施しなかった 撤退基準未達成	左記に「 」、「 」、「 × 」がある場合は必須
戦略に対する取組の有効性	・有効 × : 有効でないため見直す ・中間アウトカム未設定(未測定)	

具体的取組 3 - 1 - 5

【はつらつ脳活性化元気アップの推進】(再掲)

28決算額 1,053千円 29予算額 1,187千円 30予算額 1,015千円

計画	取組内容	業績目標（中間アウトカム）
	1)人材(リーダー)の育成 「はつらつ脳活性化元気アップリーダー養成講座」の開催 ・自分の健康、地域を元気にする意識啓発と技術取得のための講座開催(年1回、8回コース600名受講) 2)リーダー活動の拡充 「はつらつ脳活性化元気アップ講座」の開催 ・リーダーが中心となり、各地域で健康づくりから認知症予防の講座開催 ・4地域包括圏域での講座を開催し、地域住民の交流の輪を広げ、顔が見える関係づくりも行き、災害への平常時の活動に繋げる 多世代交流の実施 ・高齢者や認知症に対する理解を深め、地域支援のしくみづくりの一手法として、社協、包括、学校医、キャラバンメイトとリーダーが連携し、小学5年生に、講話や語り部、昔の遊びの体験学習を実施(1~2校) ・育成した子どもたちが夏休みや冬休みの同講座に参加、交流(1~2ヶ所)	1)・リーダー育成数 20名 2)リーダー活動の拡充 ・講座参加者の満足度 60%以上 ・小学校開催時のリーダー等の満足度 60%以上 ・育成した子どもたちが同講座で交流(1~2か所) 【撤退基準】 1)10名以下かつ50%以下の場合は、事業を再構築する。 2)リーダー活動の拡充。 の満足度30%かつ の満足度30%以下の場合、事業を再構築する。
	前年度までの実績	はつらつ脳活性化元気アップリーダー養成講座 ・リーダーとして活動している人は105名 はつらつ脳活性化元気アップ講座(H26.5から毎年開催) 東住吉区オレンジキッズ(認知症キッズサポーター)養成講座 北田辺小学校、湯里小学校で声かけ体験型講座を開催

中間振り返り	業績目標の達成状況	課題と改善策
	目標達成(見込) ( ) 取組は予定どおり進捗 ( ) 取組は予定どおり進捗していない 目標未達成(見込) ( ) 取組は予定どおり進捗 ( ) 取組は予定どおり進捗していない 撤退基準未達成	左記に「 」、「 」、「 × 」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性	・有効 × : 有効でないため取組を見直す ・中間アウトカム未設定(未測定)

自己評価	取組実績	課題
	業績目標の達成状況	改善策
	目標達成 ( ) 取組は予定どおり実施 ( ) 取組を予定どおり実施しなかった 目標未達成 ( ) 取組は予定どおり実施 ( ) 取組を予定どおり実施しなかった 撤退基準未達成	左記に「 」、「 」、「 × 」がある場合は必須
戦略に対する取組の有効性	・有効 × : 有効でないため見直す ・中間アウトカム未設定(未測定)	

めざす成果及び戦略 3 - 2 【自律的な地域社会の支援】

計画	めざす状態<概ね3～5年間を念頭に設定> 小学校区を単位とした14地域において、民主的で開かれた組織運営と会計の透明性を確保しながら、様々な活動主体が参画して地域のまちづくり活動を行う地域活動協議会が、自律的・継続的に地域運営を進めている。		戦略<中期的な取組の方向性> ・地域活動の核となる地域活動協議会について、地域ごとに特性のあるまちづくり活動を自主的に運営することができるよう、地域の実情やニーズにあった支援を行う。具体的には、自律的で継続的な運営を行うため、地域資源を活かしながら、自主財源の創出や確保に取り組んでいく。また、課題を抱えている地域を重点を置き、全体的に底上げの支援へつなげる。 ・区民の関心を高めるため、地域活動協議会等により行われている地域の自主的なまちづくり活動に関する情報発信を強化するとともに、まちづくり活動に参加しやすい環境を整える。		
	アウトカム<めざす状態を数値化した指標> ・校区等地域において、さまざまな団体が集まって、地域の活動や地域課題について話し合うことが活発になっていると感じている区民の割合： 平成32年度に50%以上				
自己評価	戦略のアウトカムに対する有効性	A:有効であり、継続して推進 I:有効でないため、戦略を見直す		課題 有効性が「I」の場合は必須	
	アウトカムの達成状況	前年度	個別	全体	今後の対応方向 有効性が「I」の場合は必須
	A:順調 B:順調でない				
	戦略の進捗状況	a:順調 b:順調でない			

具体的な取組 3 - 2 - 1 【地域の自主的なまちづくり活動への支援】

28決算額 41,737千円 | 29予算額 41,755千円 | 30予算額 37,430千円

計画	取組内容 ・地域活動協議会への補助金にかかる活動内容、申請額・交付額・精算額の、区ホームページでの公表 ・地域のまちづくりについて専門的知識のある事業者(中間支援組織)による地域活動協議会への支援(14地域) 地域の実情やニーズに合わせた研修(広報等)の実施 地域の担い手の知識・技術の習得・向上の促進策の実施 新たな地域活動の担い手の発掘、連携やスキルの継承 等 ・他地域との情報交換の場の設定 等 ・地域活動協議会への連絡会議の開催(11回)		業績目標(中間アウトカム) 「地域活動協議会」を知っている区民の割合:H30年度 35%以上  【撤退基準】 「地域活動協議会」を知っている区民の割合平成30年度35%未満であれば、事業を再構築する。  前年度までの実績 ・地域活動協議会の活動内容や補助金等を区ホームページで公表。 ・中間支援組織による、地域への個別訪問相談支援の実施。 ・地域活動協議会への連絡会議の開催(11回)		
	中間振り返り	業績目標の達成状況 :目標達成(見込) ( )取組は予定どおり進捗 ( )取組は予定どおり進捗していない :目標未達成(見込) ( )取組は予定どおり進捗 ( )取組は予定どおり進捗していない :撤退基準未達成	戦略に対する取組の有効性 :有効 x:有効でないため取組を見直す :中間アウトカム未設定(未測定)	課題と改善策 左記に「、」、「x」がある場合は必須	
自己評価	取組実績		課題 左記に「、」、「x」がある場合は必須		
	業績目標の達成状況 :目標達成 ( )取組は予定どおり実施 ( )取組を予定どおり実施しなかった :目標未達成 ( )取組は予定どおり実施 ( )取組を予定どおり実施しなかった :撤退基準未達成		改善策 左記に「、」、「x」がある場合は必須		
	戦略に対する取組の有効性 :有効 x:有効でないため見直す :中間アウトカム未設定(未測定)				

## 重点的に取り組む主な経営課題

### 経営課題4

【まちづくりの推進に向けた情報資産の共有化】

めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年間を念頭に設定＞		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地域で必要な資源、さまざまな活動主体の情報をつかみ、紙や電子媒体で、区職員がまちのセールスマンとして積極的に情報発信する。</li> <li>・地域内や他地域の情報を区民が主体的に知ることができる環境にある。</li> </ul>		
現状（課題設定の根拠となる現状・データ）		
計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区の取組に関する情報伝達（H26・27・28「各区に共通する区政運営に関する事項についてのアンケート調査結果」） 肯定的意見 H26 29.2%（市平均32.6%） H28 29.5%（市平均28.6%）</li> <li>・区役所の取組情報の入手先（平成27年第1回区民アンケート） 広報紙 58.4%（うち44歳以下43.8%、45歳以上62.7%） 口コミ 16.8%（うち " 22.9%、 " 15.1%） 掲示板 11.7%（うち " 14.6%、 " 10.8%）</li> <li>・広報紙を気軽に手にとる方法（平成26年第1回区民アンケート） もっと手に取りやすい場所に置く33.6%（うち44歳以下50.0%、45歳以上29.5%）</li> <li>・区の広報紙の入手方法（平成28年第1回区民アンケート） 新聞折込 47.0%（うち44歳以下24.4%、45歳以上54.7%） 自宅送付 16.6%（うち " 22.8%、 " 14.5%） 広報サポーター・駅 8.2%（うち " 7.1%、 " 8.6%） 未入手 25.8%（うち " 44.9%、 " 19.3%）</li> <li>・広報紙を読んだことがある割合（平成29年第1回区民アンケート） 毎月読んでいる 25.5%（うち44歳以下10.0%、45歳以上31.0%） 毎月ではないが読んだことはある 42.1%（うち " 31.3%、 " 44.5%）</li> <li>・子育てコーナーの新設、広報紙のレイアウト変更について（平成29年第1回区民アンケート） 読みやすい、読みやすくなった（24.8%）、読みにくい、読みにくくなった（1.9%）、あまり変わらない、わからない（65.8%） 44歳以下の子育て世帯の「読みやすい、読みやすくなった」割合（34.8%）</li> <li>・区役所からの必要な情報を入手する希望方法（広報紙やHPを除く）（平成28年第1回区民アンケート） 44歳以下 1位 LINE 35.4% 2位 twitter 18.9% 3位 Facebook 17.3% H29.4から配信開始した区の公式「LINE」の認知度（平成29年第1回区民アンケート） 知っており、登録している（1.1%）、知っているが、登録していない（7.3%）、知らない（87.5%）</li> <li>・子育てに役立つ情報が一つにまとまったWEBサイト「東住吉区子育て応援ナビ」の認知度（平成28年第1回区民アンケート） 44歳以下 知らない 80.3%</li> <li>・広報紙を除くSNSやTV・新聞などの積極的な情報発信の方法について（平成29年第1回区民アンケート） 様々な媒体から情報を入手しやすく、情報発信の方法が工夫されている 25.5%（うち44歳以下34.4%、45歳以上21.7%） 全体的に発信や情報はまだまだ少ないが、情報発信の方法は工夫されている 33.5%（うち " 40.3%、 " 29.6%） 情報発信の方法が、工夫されているとは思わない 19.0%（うち " 21.5%、 " 18.1%）</li> </ul>	
	要因分析（現状・データから導かれる分析結果）＜めざすべき将来像と現状に差が生じる要因＞	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで、広報紙の魅力向上のため、平成25年度に区民ボランティア記者制度を立ち上げ、区民自らが取材、執筆した記事を定期的に掲載した。また、平成24年度にツイッターを開設し、区ホームページの内容を周知し誘導する取組を実施した。</li> <li>・しかし、依然として、区の取組に関する情報伝達に対する肯定的意見は約3割にとどまり、区政会議でも常に情報発信の強化が意見されている。</li> <li>・区内の情報源として、広報紙を挙げる区民はどの年代も多いものの、実際に広報紙を入手して「いない」区民は、45歳以上で約2割、44歳以下では約5割にのぼる。</li> <li>・また、広報紙の入手方法も購読状況も求める記事も、区役所からの情報の入手方法そのものも年代によって大きく異なる。</li> </ul>	
	課題＜上記要因を解消するために必要なこと＞	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物理的に広報紙を届けるために、今後、より積極的に区として、年代に応じた入手先の開拓を行う必要がある。</li> <li>・広報紙に関心が無い区民、特に子育て層が読む頻度を上げるためにも、子育て層の区民が手に取り読みたいと思う記事を掲載するなど、魅力ある紙面に改良する必要がある。</li> <li>・SNSの発達により社会情勢は大きく変わっている現状を踏まえ、年代に即した広報戦略を立てる必要があり、各種媒体の情報を相互に連携させるクロスメディア手法を用い情報の充実取組む。その一つとして、本年4月に配信開始した「LINE」の認知度を向上させ登録数を増やすとともに、子育て応援ナビや区ホームページへ連携させるような「LINE」情報を発信する。</li> </ul>	

進 捗 評 価	戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

めざす成果及び戦略 4 - 1 【区政情報の広報戦略の展開】

計画	めざす状態<概ね3～5年間を念頭に設定> ・地域に密着した情報を収集・発信し、区の広報媒体(広報紙やホームページ等)が、区民から愛着を持たれている。 ・区職員一人ひとりがまちのセールスマンとして、東住吉の魅力発信を行うために必要な広報スキルや意識が身に付いている。	戦略<中期的な取組の方向性> ・広報紙をより魅力的な内容とし、手に取りやすい環境を整える。 ・区の公式「LINE」の認知度を向上させ、紙媒体とWeb情報、SNSを相互に連携させ、子育て層に必要な情報を届ける。 ・区民だけでなく、区外の方に対しても区の魅力を発信し、区の認知度を上げる。 ・機能的かつ効果的な広報活動に関する区職員の意識を向上させ、各課の情報受発信力を強化する。
	アウトカム<めざす状態を数値化した指標> ・区役所の情報が伝わりやすくなったと感じる区民の割合:平成32年度に60%以上	

自己評価	戦略のアウトカムに対する有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す	課題	有効性が「イ」の場合は必須
	アウトカムの達成状況	前年度 個別 全体		
			今後の対応方向	有効性が「イ」の場合は必須
		A:順調 B:順調でない		
	戦略の進捗状況	a:順調 b:順調でない		

具体的取組 4 - 1 - 1 【区の広報媒体及び内容の充実】(再掲)

28決算額 13,763千円 29予算額 15,809千円 30予算額 16,329千円

計画	取組内容 ・子育て層が見たいと思う情報の発信強化を目指した、区広報紙のリニューアル ・子育て層が広報紙を手に取りやすい配架場所の新規開拓(10箇所以上) ・子育て層に向けた情報発信サイト「LINE」の登録者数の増加 ・区広報紙やホームページと、区の公式SNS(LINE, facebook, instagramなど)を連携させ、相互の情報をクロスメディア手法により効果的に発信(各媒体から相互に情報を利用することが可能)	業績目標(中間アウトカム) 区広報紙がリニューアルされ、区政に対し関心が高まったと感じる割合:H30年度 50% 子育て層が、広報紙が読みやすくなったと感じる割合:H30年度 40% [撤退基準] が30%及び が20%をともに下回った場合は、事業を再構築する。
		前年度までの実績 ・区民ボランティア記者制度創設(区民による取材記事特集、25年4月～)。 ・ツイッターに区HPのURLを掲載し、区HPへ誘導。(24年4月～)。 ・東住吉区子育て応援ナビの開設(28年4月～)、改修(29年)。 ・子育て層に向けた情報発信サイト「LINE」の開設(29年4月)。 ・広報紙の子育てコーナー新設、記事情報のQRコードを積極的に活用。

中間振り返り	業績目標の達成状況		課題と改善策	左記に「 、 」、「×」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性	○:有効 ×:有効でないため取組を見直す :中間アウトカム未設定(未測定)		

自己評価	取組実績		課題	左記に「 、 」、「×」がある場合は必須
	業績目標の達成状況		改善策	左記に「 、 」、「×」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性	○:有効 ×:有効でないため見直す :中間アウトカム未設定(未測定)		



めざす成果及び戦略 4 - 2 【地域における情報共有の促進】

計画	めざす状態<概ね3～5年間で念頭に設定> 様々な地域課題や課題解決のための取組内容等に関する情報が地域内や地域間において共有されることにより、地域内や地域間のネットワークが拡充し、東住吉全体の地域力が向上する。		戦略<中期的な取組の方向性> 様々な地域課題や課題解決のための取組内容等に関する情報を地域内や地域間で共有できる場を設ける。	
	アウトカム<めざす状態を数値化した指標> ・校区等地域を越えたまちづくりに関する活動が、地域団体や市民、NPO、企業など様々な活動主体の連携・協働により進められていると感じている区民の割合：平成32年度に50%以上 ・身近な地域の中で、「声かけ」、「見守り」、「助け合い」、「支え合い」を実感している区民の割合：平成32年度までに60%以上			
自己評価	戦略のアウトカムに対する有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す		課題 有効性が「イ」の場合は必須
	アウトカムの達成状況	前年度	個別	全体
	A：順調 B：順調でない			
	戦略の進捗状況	a：順調 b：順調でない		今後の対応方向 有効性が「イ」の場合は必須

具体的取組 4 - 2 - 1 【地域の自主的なまちづくり活動への支援】(再掲)

28決算額 41,737千円 29予算額 41,755千円 30予算額 37,430千円

計画	取組内容 ・地域活動協議会への補助金にかかる活動内容、申請額・交付額・精算額の、区ホームページでの公表 ・地域のまちづくりについて専門的知識のある事業者(中間支援組織)による地域活動協議会への支援(14地域) 地域の実情やニーズに合わせた研修(広報等)の実施 地域の担い手の知識・技術の習得・向上の促進策の実施 新たな地域活動の担い手の発掘、連携やスキルの継承 等 ・他地域との情報交換の場の設定 等 ・地域活動協議会への連絡会議の開催(11回)		業績目標(中間アウトカム) 「地域活動協議会」を知っている区民の割合：H30年度 35%以上 中間支援組織により課題やニーズに合わせた支援を受けていると感じる地域の割合：H30年度 80%以上 [撤退基準] ・「地域活動協議会」を知っている区民の割合平成30年度35%未満であれば、事業を再構築する。 ・中間支援組織により課題やニーズに合わせた支援を受けていると感じる割合平成30年度50%未満であれば事業を再構築する。	
			前年度までの実績 ・地域活動協議会の活動内容や補助金等を区ホームページで公表。 ・中間支援組織による、地域への個別訪問相談支援の実施。 ・地域活動協議会への連絡会議の開催(11回)	
中間振り返り	業績目標の達成状況	課題と改善策 左記に「 <input type="checkbox"/> 」、「 <input type="checkbox"/> 」、「 <input type="checkbox"/> 」がある場合は必須		
	戦略に対する取組の有効性	: <input type="checkbox"/> 有効 ×: <input type="checkbox"/> 有効でないため取組を見直す : <input type="checkbox"/> 中間アウトカム未設定(未測定)		
自己評価	取組実績		課題 左記に「 <input type="checkbox"/> 」、「 <input type="checkbox"/> 」、「 <input type="checkbox"/> 」がある場合は必須	
	業績目標の達成状況		改善策 左記に「 <input type="checkbox"/> 」、「 <input type="checkbox"/> 」、「 <input type="checkbox"/> 」がある場合は必須	
	戦略に対する取組の有効性	: <input type="checkbox"/> 有効 ×: <input type="checkbox"/> 有効でないため見直す : <input type="checkbox"/> 中間アウトカム未設定(未測定)		

具体的取組 4 - 2 - 2

【地域の防災力強化(共助)】(再掲)

28決算額 1,798千円 29予算額 2,533千円 30予算額 1,242千円

計画	取組内容		業績目標(中間アウトカム)
	自主防災組織の機能強化を図る取組 ・地域の自主的、自律的な防災訓練の支援(14地域) ・地域防災リーダー防災学習の実施 ・地区防災計画の策定・改訂に向けた支援(14地域) ・地域防災活動への女性の参画促進に向けた支援 ・各小中学校の「防災・減災教育カリキュラム」に基づく防災研修・防災訓練等の支援(20校) ・事業所等に対する災害への備えと地域との連携の呼びかけ ・各地域で自主的、自律的に取り組まれている防災訓練等に関する情報の発信		有事の際にどのように行動すべきか理解している地域防災リーダーの割合:H30年度 70%以上  【撤退基準】 上記目標が50%以下であれば、事業を再構築する。
	前年度までの実績		・地域等での防災訓練等の実施(14地域) ・地域防災リーダー・女性防火クラブ合同研修の実施(5月) ・地区防災計画策定に向けた働きかけ・策定支援(14地域) ・事業所と地域との連携(災害時協力事業所登録制度の改正・地域へ情報提供)
	業績目標の達成状況		課題と改善策 左記に「 」、「 」、「 × 」がある場合は必須
中間振り返り	:目標達成(見込) ( )取組は予定どおり進捗 ( )取組は予定どおり進捗していない :目標未達成(見込) ( )取組は予定どおり進捗 ( )取組は予定どおり進捗していない :撤退基準未達成		
	戦略に対する取組の有効性	:有効 ×:有効でないため取組を見直す :中間アウトカム未設定(未測定)	
自己評価	取組実績		課題 左記に「 」、「 」、「 × 」がある場合は必須
	業績目標の達成状況		改善策 左記に「 」、「 」、「 × 」がある場合は必須
	:目標達成 ( )取組は予定どおり実施 ( )取組を予定どおり実施しなかった :目標未達成 ( )取組は予定どおり実施 ( )取組を予定どおり実施しなかった :撤退基準未達成		
	戦略に対する取組の有効性	:有効 ×:有効でないため見直す :中間アウトカム未設定(未測定)	

具体的取組 4 - 2 - 3

【地域福祉における区民相互の助け合いへの支援】(再掲)

28決算額 19,076千円 29予算額 19,253千円 30予算額 11,630千円

計画	取組内容		業績目標(中間アウトカム)
	・暮らしにおけるちょっとした困りごとについて、地域で気軽に支えあう、有償による助け合い活動「とんずみサポート」の周知・推進 ・地域住民のボランティア活動への参加促進に資する普及啓発 ・地域におけるボランティア活動のきっかけとなる交流(体験型の講座等) ・高齢者の健康増進と孤独感の解消、地域社会との交流を目的に、ボランティアが在宅のひとり暮らし高齢者や寝たきりの高齢者等に、地域施設での会食等の世話を実施(14地域、総事業費の1/2補助)。 ・地域における平時の見守りと災害時の避難支援への備えを強化するため、「要援護者名簿」を策定・活用(平成27年度から3年計画)。 ・認知症高齢者等徘徊者の保護のため、行方不明者情報を協力者にメール配信するシステムの活用。		協会の登録数を前年度比で10%増 東住吉区ボランティア・市民活動センターのボランティア(無償)の新規登録者増加率:9%以上 高齢者食事サービスの利用者アンケートで「満足している」と答えた参加者の割合:70%以上 【撤退基準】 が前年度比10%増未滿、 が9%未滿、 が60%以下の場合は、事業を再構築する。
	前年度までの実績		・有償による助け合い活動「とんずみサポート」を運用 ・ボランティア活動への参加促進に関する啓発・研修を実施 ・高齢者食事サービスの実施(14地域) ・高齢者、障がい者(身体)を対象に「要援護者名簿」を作成 ・認知症高齢者等徘徊者を保護するシステムを運用
	業績目標の達成状況		課題と改善策 左記に「 」、「 」、「 × 」がある場合は必須
中間振り返り	:目標達成(見込) ( )取組は予定どおり進捗 ( )取組は予定どおり進捗していない :目標未達成(見込) ( )取組は予定どおり進捗 ( )取組は予定どおり進捗していない :撤退基準未達成		
	戦略に対する取組の有効性	:有効 ×:有効でないため取組を見直す :中間アウトカム未設定(未測定)	
自己評価	取組実績		課題 左記に「 」、「 」、「 × 」がある場合は必須
	業績目標の達成状況		改善策 左記に「 」、「 」、「 × 」がある場合は必須
	:目標達成 ( )取組は予定どおり実施 ( )取組を予定どおり実施しなかった :目標未達成 ( )取組は予定どおり実施 ( )取組を予定どおり実施しなかった :撤退基準未達成		
	戦略に対する取組の有効性	:有効 ×:有効でないため見直す :中間アウトカム未設定(未測定)	

## 重点的に取り組む主な経営課題

### 経営課題5

### 【区民と共に創るまちづくりの推進】

めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年を念頭に設定＞

- ・区民の意見・要望・提言の聴取に努め、区の特性や地域実情に即した区政が運営される区民主体の自治を実現できている。
- ・身近な総合行政の拠点として区民から信頼される区役所をめざす。

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

H26・27「各区に共通する区政運営に関する事項についてのアンケート調査結果」

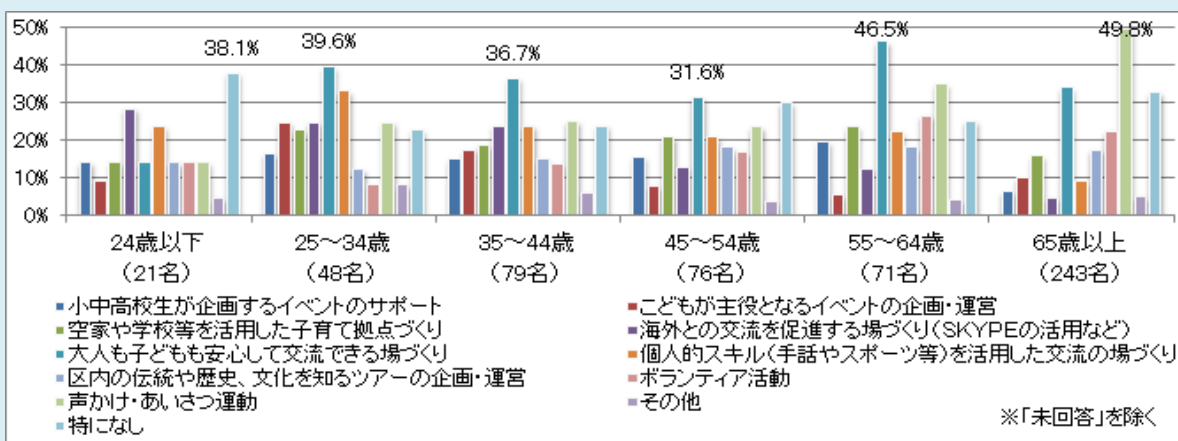
- ・区政運営についての意見聴取 肯定的意見 H26 13.3%（市平均19.2%） H28 29.0%（市平均32.4%）
- ・企画段階からの意見聴取・協働 肯定的意見 H26 10.8%（市平均15.1%） H28 26.5%（市平均27.8%）
- ・取組に対する評価を受ける仕組 肯定的意見 H26 12.1%（市平均15.9%） H28 18.1%（市平均20.6%）
- ・相談・要望への対応 肯定的意見 H26 73.0%（市平均73.3%） H28 79.2%（市平均73.5%）

その他アンケート調査結果

- ・区政会議の認知度 肯定的意見 20.3%（平成28年第3回区民アンケート）
- ・東住吉区内での住みやすさ 肯定的意見 88.8%（平成28年第1回区民アンケート）
- 区民アンケートの年代別の有効回収率（平成28年第1回区民アンケート）

	24歳以下	25～34歳	35～44歳	45～54歳	55～64歳	65歳以上	合計
配付総数	128	205	218	292	163	494	1,500
有効回収数	20	41	66	84	58	231	500
/ 有効回収率	15.6%	20.0%	30.3%	28.8%	35.6%	46.8%	33.3%
WEB回収数	3	7	10	6	4	5	35
/ WEB回収率	15.0%	17.1%	15.2%	7.1%	6.9%	2.2%	7.0%

こどもたちの未来のために他の人と一緒にやってもいいと思うこと（平成28年第2回区民アンケート）



要因分析（現状・データから導かれる分析結果）＜めざすべき将来像と現状に差が生じる要因＞

- ・区政運営について、計画段階から区民との対話や協働により進められるとともに、多様な区民による評価がなされる場である区政会議は、多種多様な経歴や数々の実績を有する委員（公募を含む）から成り立っており、同会議での議論も活発になされているが、同会議の認知度はまだまだ低く、委員以外の区民と共有できているという状況とはいえない。
- ・区民アンケート制度では、若年層の回答率が他の年代と比較して低いことから、平成28年度からWEBでも回答できるようにしたが、依然として低い状況にある。
- ・「こどもたちの未来のために、あなた自身が他の人と一緒にやってもいいと思うこと」を区民アンケートで伺うと、約65%の区民が「何か」を一緒にやってもいいと考えていることが分かった。

課題＜上記要因を解消するために必要なこと＞

- ・区民の区政への関心を高め、より一層区民の意見を反映した区政運営を実現するため、区政会議でなされた議論等を区の広報媒体等を通じて積極的に発信することが引き続き、必要であるとともに、新・東住吉区将来ビジョンの策定に向けた取り組みを充実、発展させる新たな区民参画型のしくみの構築が欠かせない。
- ・区民アンケートの回答率を上げるため、設問の表現内容やWEBを活用した回答方法の活用など、区民アンケートを引き続き、改良するとともに、必要とする対象者のニーズを的確に把握できる仕組みを構築する必要がある。
- ・より幅広い区民がまちづくり活動に主役となって関わるためには、既存の区民参画型のしくみによる活動を充実するほか、新たな区民参画型のしくみを構築する必要がある。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

面的評価

めざす成果及び戦略 5 - 1 【区民の意見を反映した区政運営の実現】

計画	めざす状態<概ね3～5年間を念頭に設定>		戦略<中期的な取組の方向性>	
	・区民の区政への関心を高め、区民の意見を反映した区政運営を行う。 ・区民が主役となるまちづくり活動が活発なまちになる。		・区政会議での取組の認知度を高める。 ・新・東住吉区将来ビジョンの実現に向けた、新たな区民参画型のしくみを構築する。 ・区民ニーズを的確に把握できる仕組みを構築する。	
自己評価	アウトカム<めざす状態を数値化した指標>		課題	
	・事業等の企画・計画段階において、区民の意見や要望を反映していると思う区民の割合：平成32年度に60%以上 ・事業等の終了時に意見を聴くなど、区民からの評価を受け、区政運営の改善につなげていると思う区民の割合：平成32年度に60%以上 ・区政運営について区民の意見や要望を反映していると思う区民の割合：平成32年度に60%以上		有効性が「イ」の場合は必須	
自己評価	戦略のアウトカムに対する有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す	課題	
	アウトカムの達成状況	前年度 個別 全体	今後の対応方向	
		A：順調 B：順調でない		有効性が「イ」の場合は必須
戦略の進捗状況		a：順調 b：順調でない		

具体的取組 5 - 1 - 1 【区民等の参画と協働による区政運営】(再掲)

28決算額 3773千円 29予算額 1362千円 30予算額 575千円

計画	取組内容		業績目標(中間アウトカム)	
	・区政会議の開催(本会議3回、2部会各2回) ・広報媒体を活用した区政会議の意義や議事内容の区民への周知 ・新・東住吉区将来ビジョンの実現に向けた、区民が主役となるまちづくりプロジェクト(e-sumiなでしこ)のサポート(月1回) ・大阪城南女子短期大学との包括連携会議(1回) ・大学や企業等と連携した取組の促進		プロジェクトに参加した区民等の中で、区民が主体的に企画に取り組み、区役所は適切にサポートしてくれていると感じる参加者の割合：H30年度60%以上 [撤退基準] 上記目標が30%を下回った場合、事業を再構築する。	
自己評価	業績目標の達成状況		課題	
	:目標達成(見込) ( )取組は予定どおり進捗 ( )取組は予定どおり進捗していない :目標未達成(見込) ( )取組は予定どおり進捗 ( )取組は予定どおり進捗していない :撤退基準未達成		左記に「、」、「x」がある場合は必須	
自己評価	戦略に対する取組の有効性	:有効 x:有効でないため取組を見直す :中間アウトカム未設定(未測定)	課題	
	取組実績	左記に「、」、「x」がある場合は必須		
自己評価	業績目標の達成状況	改善策		
	:目標達成 ( )取組は予定どおり実施 ( )取組を予定どおり実施しなかった :目標未達成 ( )取組は予定どおり実施 ( )取組を予定どおり実施しなかった :撤退基準未達成	左記に「、」、「x」がある場合は必須		
自己評価	戦略に対する取組の有効性	:有効 x:有効でないため見直す :中間アウトカム未設定(未測定)		

具体的取組5-1-2

【アンケートの充実】(再掲)

28決算額 2,551千円 29予算額 3,773千円 30予算額 2,100千円

計画	取組内容	業績目標(中間アウトカム)
	・無作為抽出した区民1,500名に対するアンケート調査の実施 (3回、うち区役所執行分の2回はWEBでの回答も可) ・オンラインアンケートの活用	アンケート調査の有効回収数 1回あたり 400名以上  [撤退基準] 有効回収数がすべての回で300名を下回る場合は、事業を再構築する。
		前年度までの実績
		・無作為抽出した区民1,500名に対するアンケート(4回) ・企業・事業所アンケート(H28.3)

中間振り返り	業績目標の達成状況	課題と改善策
	:目標達成(見込) ( )取組は予定どおり進捗 ( )取組は予定どおり進捗していない :目標未達成(見込) ( )取組は予定どおり進捗 ( )取組は予定どおり進捗していない :撤退基準未達成	左記に「 」、「 」、「 x」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性	
	:有効 x :有効でないため取組を見直す :中間アウトカム未設定(未測定)	

自己評価	取組実績	課題
	業績目標の達成状況	改善策
	:目標達成 ( )取組は予定どおり実施 ( )取組を予定どおり実施しなかった :目標未達成 ( )取組は予定どおり実施 ( )取組を予定どおり実施しなかった :撤退基準未達成	左記に「 」、「 」、「 x」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性	
	:有効 x :有効でないため見直す :中間アウトカム未設定(未測定)	

具体的取組5-1-3

【区の相談・調整機能の充実】(再掲)

28決算額 1,458千円 29予算額 1,428千円 30予算額 1,215千円

計画	取組内容	業績目標(中間アウトカム)
	区役所において、区民から相談や要望を受け付け、局、事業所などと連携し、迅速かつ適切に対応する。 ・市民の声:随時 ・法律相談(弁護士):月4回 ・法律相談(司法書士):月2回 ・税務・行政・不動産・就労相談:月1回 ・相続遺言帰化相談(行政書士):月1回 ・若者・女性の就労等トータルサポート事業:月1回 ・行政連絡調整会議及び行政連絡調整会議小会議の開催(隔月)  職員の対応力の向上に向けたスキルアップ研修の実施 (区政編 改革の柱2 -ア ) 「東住吉おもてなしプロジェクト」を継続実施し、各課を横断した全職員の意識向上の取組を推進	過去1年間に、区役所に日常生活に関する相談や要望を行った区民のうち、区役所が区における市政の総合窓口として適切に対応したと思う区民の割合:75%以上 [撤退基準] 上記目標が60%を下回る場合は、事業を再構築する。
		前年度までの実績
		市民の声(27年度237件)、法律相談(弁護士):月4回、法律相談(司法書士):月2回、税務・行政・不動産・就労相談:月1回、相続遺言帰化相談(行政書士):月1回。 行政連絡調整会議及び行政連絡調整会議小会議(各6回) 庁舎周辺清掃の実施(毎週水曜日、年1回秋頃(大阪マラソンクリーンアップ大作戦)) (区役所職員の対応力向上に向けたスキルアップ研修(全6回) タウンウォッチング研修(全2回))

中間振り返り	業績目標の達成状況	課題と改善策
	:目標達成(見込) ( )取組は予定どおり進捗 ( )取組は予定どおり進捗していない :目標未達成(見込) ( )取組は予定どおり進捗 ( )取組は予定どおり進捗していない :撤退基準未達成	左記に「 」、「 」、「 x」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性	
	:有効 x :有効でないため取組を見直す :中間アウトカム未設定(未測定)	

自己評価	取組実績	課題
	業績目標の達成状況	改善策
	:目標達成 ( )取組は予定どおり実施 ( )取組を予定どおり実施しなかった :目標未達成 ( )取組は予定どおり実施 ( )取組を予定どおり実施しなかった :撤退基準未達成	左記に「 」、「 」、「 x」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性	
	:有効 x :有効でないため見直す :中間アウトカム未設定(未測定)	

## 「市政改革プラン2.0」に基づく取組等

### 取組項目 1

【国民健康保険料の収納率向上】

計画	取組の方針・目標内容 (趣旨・目的) 被保険者の負担の公平性および保険料収入の確保 (取組の概要) きめ細やかな納付相談や納付督促に取り組むとともに、負担の公平性・公正性を確保する観点から、支払い能力のある未納世帯への滞納処分を行う。 (目標) 前年度以上の収納率(現年賦課分)を確保 29年度 90.00%(目標) 28年度 89.88% 27年度 89.53%	当年度の取組内容 (取組の内容) 現年度滞納者を中心に納付督促および財産調査を実施 差押予告の送付・滞納処分の強化 新規加入者への保険証交付時に口座振替勧奨 (目標) 前年度以上の収納率(現年賦課分)を確保 29年度 90.00%(目標) 28年度 89.88% 27年度 89.53%
----	---	--

中間振り返り	取組内容の実施見込み	( )実施見込み ( )実施できない見込み	課題と改善策 左記が「 」の場合は必須
	目標の達成見込み	:達成見込み :達成できない見込み	

自己評価	当年度の取組実績及び目標の達成状況	課題と改善策 左記が「 」の場合は必須
	:目標達成 :目標未達成	

### 取組項目 2

【介護保険料の収納率の向上】

計画	取組の方針・目標内容 (趣旨・目的)介護保険料の収納率向上 (取組の概要)介護保険事業の健全な運営のための歳入確保 (目標)前年度以上の収納率を確保する H27年度97.56% H28年度97.81%	当年度の取組内容 (取組の内容)保険料階層別(7段階以上・本人課税者)の納付督促・支払い方法変更解除者の継続的な納付管理・減免適用者への滞納防止勧奨・減免更新者に再申請の勧奨・65歳到達1号被保険者への口座振替勧奨・生活保護受給者の滞納解消に向けての勧奨・早期滞納者および中長期滞納者への業務推進センターによる納付勧奨 (目標)前年度以上の収納率の確保 H27年度97.56% H28年度97.81%
----	---	--

中間振り返り	取組内容の実施見込み	( )実施見込み ( )実施できない見込み	課題と改善策 左記が「 」の場合は必須
	目標の達成見込み	:達成見込み :達成できない見込み	

自己評価	当年度の取組実績及び目標の達成状況	課題と改善策 左記が「 」の場合は必須
	:目標達成 :目標未達成	

取組項目3 【歳入の確保】

計画	取組の方針・目標内容 (趣旨・目的) 区の自律的運営の一助とするため、独自収入の増加と新たな収入源を模索する。 (取組の概要) 区役所庁舎を活用した広告収入の増加。 (目標) 平成30年度の広告収入等の平成26年度比5割増。	当年度の取組内容 (取組の内容) 区役所内の空きスペースを有効活用した目的外使用許可を推進し、様々な広告方法の採用等により広告収入の増加を図る。 (目標) 平成30年度の広告収入等の平成26年度比5割増。

中間振り返り	取組内容の実施見込み	( ) ( )実施見込み ( )実施できない見込み	課題と改善策 左記が「 」の場合は必須
	目標の達成見込み	:達成見込み :達成できない見込み	

自己評価	当年度の取組実績及び目標の達成状況	課題と改善策 左記が「 」の場合は必須
	:目標達成 目標未達成	

取組項目4 【改革を推進する職員づくり】

計画	取組の方針・目標内容 (趣旨・目的) ひとり一人の職員がチャレンジ精神を育み、継続的・自律的に改革・改善を進めていくためのスキルの向上を通じて、職員の士気や組織パフォーマンスを高める取り組みを行い、現状に甘んじることなく改革を推進する職員の育成を進める。更に、区民が快適で利用しやすい区役所となるよう、引き続き、庁舎案内や窓口での対応の向上を図る。(改革の柱2 -ア ) (取組の概要) 「東住吉区おもてなしプロジェクト」の実施 改革・改善を進めていくための職員力向上の研修 新転任者向けに地域理解の浸透を図るための研修 (目標) ・市政改革の基本的な考え方を踏まえ、仕事のやり方を変えることを意識している職員の割合(平成30年度実績で80%以上) ・「区役所来庁者等に対するサービスの格付け結果」において、(民間の窓口サービスの平均的なレベルを上回るレベル)以上を獲得する。(改革の柱2 -ア )	当年度の取組内容 (取組の内容) 「東住吉おもてなしプロジェクト」を継続実施し、各課を横断した全職員の意識向上の取組を推進 職員の対応力向上に向けたスキルアップ研修の実施 タウンウォッチング研修の継続実施 わかりやすい庁舎案内表示の改善(改革の柱2 -ア ) (目標) 年間計6回以上 年間計5回以上 5月までに2回以上 随時(改革の柱2 -ア ) 「区役所来庁者等に対するサービスの格付け結果」において、(民間の窓口サービスの平均的なレベルを上回るレベル)以上を獲得する。(改革の柱2 -ア )

中間振り返り	取組内容の実施見込み	( )実施見込み ( )実施できない見込み	課題と改善策 左記が「 」の場合は必須
	目標の達成見込み	:達成見込み :達成できない見込み	

自己評価	当年度の取組実績及び目標の達成状況	課題と改善策 左記が「 」の場合は必須
	:目標達成 目標未達成	

取組項目5 【職員数の削減】

計画	取組の方針・目標内容 (趣旨・目的) スリムで効率的な業務執行体制をめざす。 (取組の概要) 適正な組織管理や人事管理を行う。 (目標) 職員数の削減を行う。	当年度の取組内容 (取組の内容・目標) 市の人員マネジメントに基づき、職員数の見直しを実施する。

中間振り返り	取組内容の実施見込み	( )実施見込み ( )実施できない見込み	課題と改善策 左記が「」の場合は必須
	目標の達成見込み	:達成見込み :達成できない見込み	

自己評価	当年度の取組実績及び目標の達成状況		課題と改善策 左記が「」の場合は必須
	:目標達成 :目標未達成		



「市政改革プラン2.0」に基づく取組等

取組項目6

【人と人とのつながりづくり(区政編 改革の柱1 -ア)】

計画	取組の方針・目標内容		当年度の取組内容
	<p>(趣旨・目的) 近所に住む人同士の日常生活の中で顔見知りになる機会を設けていく。</p> <p>(取組の概要) ・近所に住む人同士が集まり、福祉や防災といった身近な課題に気付き日常から顔見知りになりつながっていることの大切さを感じてもらえるよう、防災訓練などの機会を捉えて啓発を行う。 ・若い世代をはじめ多くの人に、つながりづくりの大切さと興味を持ってもらえるよう、事例の共有や取組の情報発信を行う。 ・地縁による団体やグループへの加入を促進するため、地域のつながりの基礎となる自治会・町内会などのつながりづくりのための活動(マンション内での活動を含む)を支援する。</p> <p>(目標) 身近な地域でのつながりに関して肯定的に感じている区民の割合 【平成29年度】 ・30% 【平成30年度】 ・51.8% (29年度実績値(49.8%)に比べて2%増) 【平成31年度】 ・54.8% (29年度実績値(49.8%)に比べて5%増)</p>		<p>(取組の内容) 地域活動に関する意識を向上させる取組 ・広報紙やホームページなどでの情報発信 ・町会加入促進チラシなどの作成・配付 ・様々な催し等での啓発</p> <p>(目標) 身近な地域でのつながりに関して肯定的に感じている区民の割合 【平成30年度】 ・51.8% (29年度実績値(49.8%)に比べて2%増)</p>
中間振り返り	取組内容の実施見込み	( )実施見込み ( )実施できない見込み	課題と改善策 左記が「」の場合は必須
	目標の達成見込み	:達成見込み :達成できない見込み	
自己評価	当年度の取組実績及び目標の達成状況		課題と改善策 左記が「」の場合は必須
	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <span>: 目標達成</span> <span>: 目標未達成</span> </div>		

取組項目7

【地域に根ざした活動の活性化(地縁型団体)(区政編 改革の柱1 -ア)】  
担い手不足の解消

計画	取組の方針・目標内容	当年度の取組内容
	<p>(趣旨・目的) 子育てや高齢者への支援、地域の安全・安心の確保、まちの美化、地域の魅力創出など、多様な分野における地域活動について、担い手不足の解消を進めることで活動の活性化をめざす。</p> <p>(取組の概要) 自治会・町内会単位の活動への支援 ・つながりづくりの基盤となる自治会・町内会単位の活動について、課題やニーズの実態を把握し、活動を支援する。</p> <p>地域リーダーの活躍促進 ・活動の担い手になることを期待してきた地域リーダーなどの人材を改めて把握し、既存のリーダー養成の仕組みで形骸化しているものがあれば見直しを行ったうえで、本人の意向に基づき活躍の場につなぐ取組を実施する。</p> <p>気軽に活動に参加できる機会の提供 ・高齢者や子どもの居場所づくりなど、誰もが気軽に参加できる場の情報など、活動のきっかけとなる情報を収集・発信し、市民活動への参加を呼びかける。</p> <p>ICTを活用したきっかけづくり ・地縁型団体への参加が少ない若い世代に向けて、活動への参加を呼びかけるため、SNSなどのICTを活用した、地域住民への情報発信や対話を進める取組を進め、市民同士または市民と行政がつながり、様々な地域課題を市民協働で解決するきっかけづくりを行う。また、ICTを活用して地域課題解決に取り組む「Code for OSAKA」によるCivicTech活動と、地域課題解決に取り組む市民や市民活動団体との橋渡しを行うなど、地域活動への新たな担い手の参画につなぐ。</p> <p>(目標) 自治会・町内会単位の活動に参加している区民のうち、自治会・町内会単位の活動に対する市からの支援が役に立っていると感じている区民の割合            [平成30年度] ・53% (前年度以上)            [平成31年度] ・55%            地縁型団体が行う活動に参加している区民の割合            [平成29年度] ・15%            [平成30年度] ・24% (前年度以上)            [平成31年度] ・25%</p>	<p>自治会・町内会単位の活動への支援 ・広報紙やホームページなどでの情報発信 ・町会加入促進チラシなどの作成・配付 ・様々な催し等での啓発</p> <p>地域リーダーの活躍促進 ・関係部局等と連携し、本人の意向に基づき活躍の場につなげるよう取り組む。</p> <p>気軽に活動に参加できる機会の提供 地域活動に関する意識を向上させる取組 ・広報紙やホームページなどでの情報発信 ・町会加入促進チラシなどの作成・配付 ・様々な催し等での啓発</p> <p>「はつらつ脳活性化元気アップ事業」での「認知症区民フォーラム」「はつらつ脳活性化元気アップリーダー養成講座」「リーダーが各地域で開催する認知症予防の健康講座」「若いリーダーの育成と多世代交流のための認知症キッズサポーター養成講座」などを保健師や地域のリーダーが区内の住民にピラを配布したり、区の広報紙、ホームページで情報発信を行い、市民への参加を呼びかける。</p> <p>ICTを活用したきっかけづくり 区の新たな広報媒体(LINE、facebook、instagramなど)を対象に応じて活用する。</p> <p>自治会・町内会単位の活動に参加している区民のうち、自治会・町内会単位の活動に対する市からの支援が役に立っていると感じている区民の割合：53% 関係部局等と連携し、地域リーダーが活躍できる手法等について検討した件数：1件以上 月一回以上の情報発信 ICTを活用した市民との対話を促進する取組が新たに創出された件数：1件 地縁型団体が行う活動に参加している区民の割合：24%</p>

中間振り返り	取組内容の実施見込み	( )実施見込み ( )実施できない見込み	課題と改善策 左記が「」の場合は必須
	目標の達成見込み	:達成見込み :達成できない見込み	

自己評価	当年度の取組実績及び目標の達成状況		課題と改善策 左記が「」の場合は必須
		:目標達成 目標未達成	

取組項目8 【地域に根ざした活動の活性化(地縁型団体)(区政編 改革の柱1 -ア)】  
負担感の解消及び活動の充実

取組の方針・目標内容	当年度の取組内容
<p>(趣旨・目的) 子育てや高齢者への支援、地域の安全・安心の確保、まちの美化、地域の魅力創出など、多様な分野における地域活動について、それぞれの活動の範囲やステージに応じた支援を行う。 地域の方々が感じている「やらされ感」「負担感」を解消し、問題意識や意欲をもって活動していただけるよう、委嘱する活動内容を見直し地域の実態に即したものとしていくとともに、補助金を出すことによって具体的な活動内容まで指定をお願いしているものではないことをしっかりと説明し理解していただく。</p> <p>(取組の概要)</p> <p>補助金についての理解促進 ・補助金を出すことによって具体的な活動内容まで指定しているものではないことについて、地域活動協議会の会議の場などで説明を行うなど、地域活動協議会のメンバーの理解促進を図る。</p> <p>活動の目的の再確認 ・各団体に対して、活動が形骸化することのないよう活動目的を改めて確認する機会を作るなどの支援を行う。</p> <p>市民活動総合ポータルサイトの充実 ・身近な地域課題に取り組み団体などの運営に関する情報を一元的に発信する「市民活動総合ポータルサイト」に、各団体の登録及び積極的な活用を促す。</p> <p>活動への参加促進 ・各団体の活動が持続的なものとなるよう、誰もが気軽に参加(短時間や短期間だけ活動に参加)できるための仕組みや工夫に関する情報を提供するなどの支援を行う。</p> <p>委嘱制度の再検討 委嘱による活動内容が地域実情に即したものとなるよう再検討したうえで、委嘱する市民の方に委嘱の趣旨・目的をしっかりと理解していただくための取組を進める。</p> <p>(目標) 各団体により地域の特性や課題に応じた活動が進められていると感じている区民の割合 [平成29年度] ・40% [平成30年度] ・47%(前年度以上) [平成31年度] ・48%</p>	<p>(取組の内容)</p> <p>～ 地域連絡会議や各地域における会議の場などあらゆる機会を捉え、理解促進等を図る</p> <p>委嘱制度の再検討・地域活動に関わる区民の負担感をできるだけ解消するため、関係部局等と連携し、委嘱制度について検討する。</p> <p>(目標) 地域活動協議会補助金の趣旨について、地域活動協議会の会議の場などで説明を行った回数：15回 各団体に対して、活動が形骸化することのないよう活動目的を改めて確認するきっかけとなる機会を作った回数：2回 市民活動総合ポータルサイトへの各団体の登録件数：1件 各団体に対し、短時間や短期間だけ活動に参加できるなど、誰もが気軽に活動に参加できるための仕組みや工夫に関する情報を提供する回数：1回 各団体により地域の特性や課題に応じた活動が進められていると感じている区民の割合：47% 関係部局等と連携し、委嘱制度について検討した件数：1件</p>

中間振り返り	取組内容の実施見込み	( )実施見込み ( )実施できない見込み	課題と改善策 左記が「」の場合は必須
	目標の達成見込み	:達成見込み :達成できない見込み	

自己評価	当年度の取組実績及び目標の達成状況	課題と改善策 左記が「」の場合は必須
	:目標達成 目標未達成	

取組項目9

【地域を限定しない活動の活性化(テーマ型団体)(区政編 改革の柱1 -イ)】

<p><b>取組の方針・目標内容</b></p> <p>(趣旨・目的) 活動圏域を限定せず、地域社会の課題に取り組むテーマ型団体に対しては、「市民活動総合ポータルサイト」を活用するなど「多様な市民活動への支援メニューの充実」で整理する支援メニューの情報を適切に提供することで、活動の活性化の支援を充実させる。 また、区とテーマ型団体との接点が増加するよう職員意識の向上に取り組む。</p> <p>(取組の概要) テーマ型団体への支援窓口の設置 ・多様な活動主体間の交流の場への参画などにより、テーマ型団体とのつながりをつくることにも、「市民活動総合ポータルサイト」の活用などにより、テーマ型団体も対象とした支援情報の提供ができる窓口を設置する。</p> <p>計画 ICT利活用による市民協働のきっかけづくり(取組項目7の再掲) ・SNSなどのICTを活用した、地域住民への情報発信や対話を進める取組を進め、市民同士または市民と行政がつながり、様々な地域課題を市民協働で解決するきっかけづくりを行う。また、ICTを活用して地域課題解決に取り組む「Code for OSAKA」によるCivicTech活動と、地域課題解決に取り組む市民や市民活動団体との橋渡しを行うなど、地域活動への新たな担い手の参画につなぐ。</p> <p>(目標) 各区の市民活動支援情報提供窓口への問合せ件数 【平成29年度】 ・窓口の設置(済) 【平成30年度】 ・1件 【平成31年度】 ・2件</p>	<p><b>当年度の取組内容</b></p> <p>(取組の内容) テーマ型団体への支援窓口の設置 各業務に応じてテーマ型団体との連携を図り、窓口を設置する。</p> <p>ICTを活用したきっかけづくり(再掲) 区の新たな広報媒体(LINE、facebook、instagramなど)を対象に応じて活用する。</p> <p>(目標) 【平成29年度】 窓口への問合せ件数:1件 ICTを活用した市民との対話を促進する取組が新たに創出された件数:1件</p>
---	---

<p>中間振り返り</p>	<p>取組内容の実施見込み</p>	<p>( )実施見込み ( )実施できない見込み</p>	<p><b>課題と改善策</b> 左記が「」の場合は必須</p>
	<p>目標の達成見込み</p>	<p>達成見込み 達成できない見込み</p>	

<p>自己評価</p>	<p>当年度の取組実績及び目標の達成状況</p>	<p>課題と改善策 左記が「」の場合は必須</p>
	<p>目標達成 : 目標未達成</p>	

取組項目10

【地域活動協議会への支援(区政編 改革の柱1 -ア)】  
活動の活性化に向けた支援(地域実情に応じたきめ細やかな支援)

<p><b>取組の方針・目標内容</b></p> <p>(趣旨・目的) 地域活動協議会に対し、地域ごとの特性や地域課題を把握したうえで、地域の実情に応じたきめ細やかな支援を実施する。</p> <p>(取組の概要) 地域の実情に応じたきめ細やかな支援 ・統計データも活用して、地域ごとに、人口動態などの地域特性や地域の課題、地域活動協議会の活動状況や運営上の課題などについて、客観化・明確化するための「地域カルテ」の作成を支援し、各地域活動協議会との間で認識共有する。 ・各地域活動協議会に対し、地域カルテに基づくきめ細やかな支援を行うとともに、支援の内容について各地域活動協議会の評価を受け、改善につなげる。</p> <p>(目標) 地域活動協議会の構成団体が、自分の地域に即した支援を受けることができていると感じた割合 【平成29年度】 ・80% 【平成30年度】 ・80%(前年度以上) 【平成31年度】 ・81%</p>	<p><b>当年度の取組内容</b></p> <p>(取組の内容) 各地域への訪問・ヒアリングによる「地域カルテ」の作成を支援及び認識の共有を図る。</p> <p>(目標) 地域活動協議会の構成団体が、自分の地域に即した支援を受けることができていると感じた割合 【平成30年度】 ・80%</p>
---	--

<p>中間振り返り</p>	<p>取組内容の実施見込み</p>	<p>( )実施見込み ( )実施できない見込み</p>	<p><b>課題と改善策</b> 左記が「」の場合は必須</p>
	<p>目標の達成見込み</p>	<p>達成見込み 達成できない見込み</p>	

<p>自己評価</p>	<p>当年度の取組実績及び目標の達成状況</p>	<p>課題と改善策 左記が「」の場合は必須</p>
	<p>目標達成 : 目標未達成</p>	

取組項目 1 1

【地域活動協議会への支援(区政編 改革の柱1 -ア)】  
活動の活性化に向けた支援(地域活動協議会の認知度向上に向けた支援)

計画	取組の方針・目標内容	当年度の取組内容
	<p>(趣旨・目的) 地域活動協議会が地域住民に知られるよう支援する。</p> <p>(取組の概要) 地域活動協議会の認知度向上に向けた支援 ・地域活動協議会の認知度が低い原因を分析したうえで課題を抽出し、地域カルテに記録する。 ・各地域の課題に応じ、学校との連携やICTなども活用しながら、認知度向上に向けた効果的な支援を行う。</p> <p>(目標) 地域活動協議会を知っている区民の割合 【平成29年度】 ・30% 【平成30年度】 ・35% 【平成31年度】 ・40%</p>	<p>(取組の内容) 各地域への訪問・ヒアリングによる「地域カルテ」の作成を支援及び認識の共有化を図る。</p> <p>(目標) 地域活動協議会を知っている区民の割合 【平成30年度】 ・35%</p>

中間振り返り	取組内容の実施見込み	( )実施見込み ( )実施できない見込み	課題と改善策 左記が「」の場合は必須
	目標の達成見込み	・達成見込み ・達成できない見込み	

自己評価	当年度の取組実績及び目標の達成状況	課題と改善策 左記が「」の場合は必須
	<p>：目標達成 ；目標未達成</p>	

取組項目 1 2

【地域活動協議会への支援(区政編 改革の柱1 -ア)】  
活動の活性化に向けた支援(準行政的機能の趣旨についての理解度向上)

計画	取組の方針・目標内容	当年度の取組内容
	<p>(趣旨・目的) 地域活動協議会に対して「準行政的機能」が求められることについて、地域住民の理解が深まるよう働きかける。</p> <p>(取組の概要) 地域活動協議会に期待する準行政的機能の趣旨についての理解度向上 ・地域活動協議会に期待する準行政的機能について、地域を担当する職員全員を対象にeラーニングの実施などにより改めて職員の理解を促進するとともに、地域活動協議会の役員や構成団体の方をはじめ地域住民の理解が深まるよう引き続き機会あるごとに積極的に発信する。</p> <p>(目標) 地域活動協議会の構成団体が、地域活動協議会に求められている準行政的機能を認識している割合 【平成29年度】 ・80% 【平成30年度】 ・80% (前年度以上) 【平成31年度】 ・81%</p>	<p>(取組の内容) 地域を担当する職員全員が、eラーニングを受講する。 ・地域連絡会議や各地域における会議の場などあらゆる機会を捉え、理解促進等を図る</p> <p>(目標) 地域を担当する職員のeラーニング受検率及び理解度 【平成30年度】 ・受検率100% かつ 理解度全員95点以上</p> <p>地域活動協議会の構成団体が、地域活動協議会に求められている準行政的機能を認識している割合 【平成30年度】 ・80%</p>

中間振り返り	取組内容の実施見込み	( )実施見込み ( )実施できない見込み	課題と改善策 左記が「」の場合は必須
	目標の達成見込み	・達成見込み ・達成できない見込み	

自己評価	当年度の取組実績及び目標の達成状況	課題と改善策 左記が「」の場合は必須
	<p>：目標達成 ；目標未達成</p>	

取組項目 13

【地域活動協議会への支援(区政編 改革の柱1 -ア)】  
総意形成機能の充実

取組の方針・目標内容	当年度の取組内容
<p>(趣旨・目的) 地域活動協議会が総意形成機能を期待されていることについて、構成団体はもとより、地域住民の理解が深まるよう働きかける。 総意形成機能を発揮するために地域活動協議会が備えておくべき要件が、継続して満たされているかどうかについて、定期的を確認する。</p> <p>(取組の概要) 地域活動協議会の認知度向上に向けた支援(取組項目11の再掲) ・地域活動協議会の認知度が低い原因を分析しうたえで課題を抽出し、地域カルテに記録する ・各地域の課題に応じ、学校との連携やICTなども活用しながら、認知度向上に向けた効果的な支援を行う</p> <p>地域活動協議会に期待する総意形成機能の趣旨についての理解度向上 ・地域活動協議会が総意形成機能を期待されていることや、そのために必要な要件について、地域を担当する職員全員を対象にeラーニングの実施などにより改めて職員の理解を促進するとともに、役員や構成団体はもとより地域住民の方の理解が深まるよう機会あるごとに積極的に発信する</p> <p>総意形成機能を発揮するために備えておくべき要件の確認など ・大阪市として、地域の総意を求める際には、地域活動協議会に積極的に求めていく必要があるため、地域活動協議会において、総意形成機能を発揮するために備えておくべき要件を満たしているか、行政として定期的を確認するとともに、必要に応じて、各地域活動協議会への支援や関係規定の整備などを行う。</p> <p>(目標) 総意形成機能を認識している地域活動協議会の構成団体の割合 【平成29年度】 ・各地域活動協議会からの推薦を受けた区政会議の委員を選定 【平成30年度】 ・総意形成機能を認識している地域活動協議会の構成団体の割合：50% 【平成31年度】 ・総意形成機能を認識している地域活動協議会の構成団体の割合：60%</p>	<p>(取組の内容) 地域活動協議会の認知度向上に向けた支援(取組項目11の再掲) ・各地域への訪問・ヒアリングによる「地域カルテ」の作成を支援及び認識の共有を図る。</p> <p>地域活動協議会に期待する総意形成機能の趣旨についての理解度向上 ・地域を担当する職員全員が、eラーニングを受講する。 ・地域連絡会議や各地域における会議の場などあらゆる機会を捉え、理解促進等を図る</p> <p>総意形成機能を発揮するために備えておくべき要件の確認など 各地域への訪問・ヒアリングによる「地域カルテ」の作成支援及び認識共有化</p> <p>(目標) 地域を担当する職員のeラーニング受検率及び理解度 【平成30年度】 ・受検率100% かつ 理解度全員95点以上 地域活動協議会を知っている区民の割合(再掲) 【平成30年度】 ・35% 総意形成機能を認識している地域活動協議会の構成団体の割合：50% 【平成30年度】 ・各地域活動協議会からの推薦を受けた区政会議の委員を選定</p>

中間振り返り	取組内容の実施見込み	課題と改善策
	<input type="checkbox"/> 実施見込み <input type="checkbox"/> 実施できない見込み	左記が「」の場合は必須
	:達成見込み :達成できない見込み	

自己評価	課題と改善策
当年度の取組実績及び目標の達成状況 :目標達成 :目標未達成	左記が「」の場合は必須

取組項目 14

【多様な主体のネットワーク拡充への支援(区政編 改革の柱1 -イ)】

計画	取組の方針・目標内容	当年度の取組内容
	<p>(趣旨・目的) 市民活動団体、企業等、行政といった多様な活動主体間の連携・協働の促進に向けて、各地域の実情に応じた支援を行う。 特に、地縁型団体に対しては、他の活動主体との連携・協働のメリットが実感されるよう事例の情報提供を積極的に行う。</p> <p>(取組の概要) 交流やコーディネートの場づくりなど ・多様な活動主体間の連携協働に向けた交流やコーディネートの場を、より課題に近いエリアである各地域において提供する。</p> <p>地縁型団体への情報提供など ・地縁型団体については、団体の課題やニーズを把握し、他の活動主体との連携協働のメリットが実感されるよう事例の情報提供を行うとともに、適切な支援メニューを選択・提供するなど、新たな連携が創出されるよう支援を行う。</p> <p>(目標) 新たに地域活動協議会とNPOや企業等とが連携した取組を行った件数 【平成29年度】 ・5件 【平成30年度】 ・5件 【平成31年度】 ・5件</p>	<p>(取組の内容) 交流やコーディネートの場づくりなど ・はつらつ脳活性化元気アップリーダー同志が、包括圏域で交流し、地域の高齢者が広域に集まったり、情報交換をしながら、地域で実施する講座の質の向上を図る。 ・子育て力アップキャッチ&amp;フォロー事業において、子育て力をつけた母親同士の交流の場を提供し、地域で孤立者を減らす取組に繋げる。</p> <p>地縁型団体への情報提供など ・地域連絡会議や各地域における会議の場などあらゆる機会を捉え、理解促進等を図る</p> <p>(目標) 新たに地域活動協議会とNPOや企業等とが連携した取組を行った件数 【平成30年度】 ・5件</p>

中間振り返り	取組内容の実施見込み	( )実施見込み ( )実施できない見込み	課題と改善策 左記が「 」の場合は必須
	目標の達成見込み	達成見込み 達成できない見込み	

自己評価	当年度の取組実績及び目標の達成状況	課題と改善策 左記が「 」の場合は必須
	<p>：目標達成   ：目標未達成</p>	

取組項目 15

【多様な市民活動への支援メニューの充実(区政編 改革の柱1 -イ)】  
地域の実態に応じたきめ細やかな支援(まちづくりセンター等による支援)

計画	取組の方針・目標内容	当年度の取組内容
	<p>(趣旨・目的) 地域コミュニティの活性化に向け多様な協働(マルチパートナーシップ)の推進に対する支援にあたっては、その課題に応じて、まちづくりセンター等や派遣型地域公共人材などが適切に活用されるよう、活用方策をわかりやすく取りまとめる。</p> <p>(取組の概要) まちづくりセンター等による支援内容の見直し ・地域活動協議会の立上げを重点的に進めるために行ってきたまちづくりセンター等による支援について、地域活動協議会の自立運営に向けた支援へと転換していくため、支援内容の見直しを行い、地域の実情に即した支援を行う。</p> <p>(目標) まちづくりセンター等の支援を受けた団体が、支援に満足している割合 【平成29年度】 ・75% 【平成30年度】 ・75%(前年度以上) 【平成31年度】 ・76%</p>	<p>(取組の内容) 各地域への訪問・ヒアリングによる「地域カルテ」の作成を支援及び認識の共有化を図る。</p> <p>(目標) まちづくりセンター等の支援を受けた団体が、支援に満足している割合 【平成30年度】 ・75%</p>

中間振り返り	取組内容の実施見込み	( )実施見込み ( )実施できない見込み	課題と改善策 左記が「 」の場合は必須
	目標の達成見込み	達成見込み 達成できない見込み	

自己評価	当年度の取組実績及び目標の達成状況	課題と改善策 左記が「 」の場合は必須
	<p>：目標達成   ：目標未達成</p>	

取組項目 16

【多様な市民活動への支援メニューの充実(区政編 改革の柱1 -イ)】  
 地域の実態に応じたきめ細やかな支援(派遣型地域公共人材による支援)

計画	取組の方針・目標内容	当年度の取組内容
	(趣旨・目的) 地域コミュニティの活性化から多様な協働(マルチパートナーシップ)の推進に対する支援にあたっては、その課題に応じて、まちづくりセンター等や派遣型地域公共人材などが適切に活用されるよう、活用方をわかりやすく取りまとめる。(再掲)  (取組の概要) 派遣型地域公共人材の活用促進 ・幅広い市民活動団体を対象として構築してきた派遣型地域公共人材機能について、ホームページやSNSを活用した情報発信を行い、積極的な活用を促す。  (目標) 派遣型の地域公共人材が活用された件数 【平成29年度】 ・1件 【平成30年度】 ・1件 【平成31年度】 ・1件	(取組の内容) ホームページなどを活用した情報発信   (目標) 派遣型の地域公共人材が活用された件数 【平成30年度】 ・1件

中間振り返り	取組内容の実施見込み	( )実施見込み ( )実施できない見込み	課題と改善策 左記が「」の場合は必須
	目標の達成見込み	:達成見込み :達成できない見込み	

自己評価	当年度の取組実績及び目標の達成状況	課題と改善策 左記が「」の場合は必須
	:目標達成 :目標未達成	

取組項目 17

【市民活動の持続的な実施に向けた  
 CB/SB化、社会的ビジネス化の支援(区政編 改革の柱1 -ウ)】

計画	取組の方針・目標内容	当年度の取組内容
	(趣旨・目的) 区役所職員がまちづくりセンター等の職員と連携して、持続的な活動のための財源確保の手法としてのCB/SB化、社会的ビジネス化を的確に支援する  (取組の概要) CB/SB化、社会的ビジネス化の支援 ・CB/SB化、社会的ビジネス化の支援を進める  (目標) 区が関与したCB/SB起案件数及び、社会的ビジネス化事業創出件数 【平成29年度】 ・2件 【平成30年度】 ・3件 【平成31年度】 ・3件  平成29年度～平成31年度の3年間で6件	(取組の内容) コミュニティ回収実施可能な地域を選定し、自立的な運営に至る支援を行い、事業の創出を図る。   (目標) 区が関与したCB/SB起案件数及び、社会的ビジネス化事業創出件数 【平成30年度】 ・3件

中間振り返り	取組内容の実施見込み	( )実施見込み ( )実施できない見込み	課題と改善策 左記が「」の場合は必須
	目標の達成見込み	:達成見込み :達成できない見込み	

自己評価	当年度の取組実績及び目標の達成状況	課題と改善策 左記が「」の場合は必須
	:目標達成 :目標未達成	



## 「市政改革プラン2.0」に基づく取組等

取組項目18

【「ニア・イズ・ベター」に基づく分権型教育行政の効果的な推進  
(区政編 改革の柱2 -イ)】

	取組の方針・目標内容	当年度の取組内容
計 画	<p>(趣旨・目的) 職員や校長が分権型教育行政の制度や趣旨に基づいて業務を進めることで、「ニア・イズ・ベター」に基づく分権型教育行政の効果的な推進を図り、学校や地域における教育の活性化につなげる。</p> <p>(取組の概要) 分権型教育行政の効果的な推進に向けて、分権型教育行政の理解促進に向けた取組等、具体的な取組を進める。</p> <p>(目標)                      自校において、学校の実情に応じた教育が行われ教育内容がより充実したと感じる区内小・中学校長の割合                      委員を務める学校において、学校の実情に応じた教育が行われ教育内容がより充実したと感じる区内小・中学校の学校協議会委員の割合                      区内において、学校、地域の実情に応じた教育が行われたと感じる「保護者・区民等の参画のための会議」の委員の割合                      【平成30年度】                      ・30%                      【平成31年度】                      ・40%                 </p>	<p>(取組の内容) 教育行政連絡会の開催等を通じて校長との情報共有を図るとともに、各校の課題やニーズに応じた教育活動支援に取組む。</p> <p>(目標)                      自校において、学校の実情に応じた教育が行われ教育内容がより充実したと感じる区内小・中学校長の割合                      委員を務める学校において、学校の実情に応じた教育が行われ教育内容がより充実したと感じる区内小・中学校の学校協議会委員の割合                      区内において、学校、地域の実情に応じた教育が行われたと感じる「保護者・区民等の参画のための会議」の委員の割合                      【平成30年度】                      ・30%                 </p>

	取組内容の実施見込み	( )実施見込み ( )実施できない見込み	課題と改善策 <span style="float: right;">左記が「 」の場合は必須</span>
中 間 振 り 返 り	目標の達成見込み	:達成見込み :達成できない見込み	

	当年度の取組実績及び目標の達成状況	課題と改善策 <span style="float: right;">左記が「 」の場合は必須</span>
自 己 評 価	:目標達成 :目標未達成	

取組項目19

【区における住民主体の自治の実現(区政編 改革の柱2 -ア)】

計画	取組の方針・目標内容	当年度の取組内容
	<p>(戦略) 区政運営への区民の参画をより一層推進するため、区政会議において区民の意見やニーズを的確に把握するとともに、出された意見への対応について説明責任を十分に果たすことができるよう、より効果的な会議運営に向けたPDCAを実施する。</p> <p>(取組の概要) 区政会議の運営についての効果的なPDCAの実施 施策・事業の企画段階や事後だけではなく執行段階においても区政会議の委員の意見を聴取して必要に応じて反映するなど、区政会議の委員とより活発な意見交換を行う。 区政運営について、区役所の自己評価に対する意見に加え、委員の評価を直接受ける。 区政会議の委員が区政運営に参画しているという実感がより得られるよう、区政会議において委員から出された意見などについて、区政への反映状況や反映できなかった場合の理由を区政会議の場で明らかにする。 区政会議と地域活動協議会との連携 区政会議と地域の総意形成機能を担う地域活動協議会との連携を促進するため、各地域活動協議会からの区政会議の委員の選定に向けて取り組む。</p> <p>(目標) -1 区政会議において、各委員からの意見や要望、評価について、十分に区役所や委員との間で意見交換が行われていると感じている区政会議の委員の割合 29年度 60% 30年度 73% 31年度 75% -2 区政会議において、各委員からの意見や要望、評価について、適切なフィードバックが行われたと感じる区政会議の委員の割合 29年度 60% 30年度 70% 31年度 75% 30・31年度の目標は、29年度の結果を踏まえて設定 地域活動協議会からの推薦を受けた区政会議の委員を選定する。</p>	<p>(取組の内容) 区政会議の運営についての効果的なPDCAの実施 【区政会議委員とのより活発な意見交換】 より活発な意見交換に向け区政会議運営上の課題把握のためのアンケートを区政会議委員に対して実施する。 アンケート結果に基づき会議運営の改善を図るとともに、いただいた意見についての対応状況を区政会議において示す。 【区政会議での委員の意見の反映状況のフィードバック】 区政会議における意見への対応状況(予算への反映状況を含む)について、区政会議において説明する。 【区政運営についての委員からの直接の評価】 区の取組について、委員から4段階で評価を受けて点数化し、各委員の評価を平均して公表する。  区政会議と地域活動協議会との連携 地域活動協議会から推薦を受けた区政会議の委員を選定する。</p> <p>(目標) -1 区政会議において、各委員からの意見や要望、評価について、十分に区役所や委員との間で意見交換が行われていると感じている区政会議の委員の割合 30年度 73%以上 -2 区政会議において、各委員からの意見や要望、評価について、適切なフィードバックが行われたと感じる区政会議の委員の割合 30年度 70%以上 地域活動協議会からの推薦を受けた区政会議の委員を選定する。</p>

中間振り返り	取組内容の実施見込み	( )実施見込み ( )実施できない見込み	課題と改善策 左記が「 」の場合は必須
	目標の達成見込み	:達成見込み :達成できない見込み	

自己評価	当年度の取組実績及び目標の達成状況	課題と改善策 左記が「 」の場合は必須
	<p style="text-align: right;">: 目標達成 目標未達成</p>	

取組項目20

【多様な区民の意見やニーズの的確な把握(区政編 改革の柱2 -イ)】

計画	<p><b>取組の方針・目標内容</b></p> <p>(戦略) 区民の意見やニーズの把握手法について、これまでの取組や他都市の事例を参考に様々な工夫を凝らしていく。</p> <p>(取組の概要) 意見やニーズの把握手法の多角化 これまで区において実施してきた様々な取組を継続するとともに、他区・他都市の事例を参考に、効果的な取組であると区長会議において判断され、ベストプラクティスとして、24区で共有された内容について、当区においての実施を検討し、ニーズ把握の手法の多角化につなげる。</p> <p>(目標) 区役所が、様々な機会を通じて区民の意見やニーズを把握していると感じる区民の割合 29年度 35% (28年度 32.4%) 30年度 40% 31年度 41%</p>	<p><b>当年度の取組内容</b></p> <p>(取組の内容) これまで実施してきた次の取組を継続して実施する。 ・区政会議の開催(本会議3回、2部会各2回) ・広報媒体を活用した区政会議の意義や議事内容の区民への周知 ・新・東住吉区将来ビジョンの実現に向けた、区民が主役となるまちづくりプロジェクト(e-sumiなでこ)のサポート(月1回) ・大阪城南女子短期大学との包括連携会議(1回) ・大学や企業等と連携した取組の促進</p> <p>・無作為抽出した区民1,500名に対するアンケート調査の実施(4回、うち区役所執行分の3回はWEBでの回答も可) ・オンラインアンケートの活用 ・対象(子育て層・転出者)を限定したアンケート調査の実施(2回) 効果的な取組であると区長会議において判断された内容を検討し、可能なものを実施する。</p> <p>(目標) 区役所が、様々な機会を通じて区民の意見やニーズを把握していると感じる区民の割合 30年度 40%</p>
----	---	--

中間振り返り	<p>取組内容の実施見込み</p> <p>( )実施見込み ( )実施できない見込み</p>	<p>課題と改善策</p> <p>左記が「 」の場合は必須</p>
	<p>目標の達成見込み</p> <p>:達成見込み :達成できない見込み</p>	

自己評価	<p>当年度の取組実績及び目標の達成状況</p>	<p>課題と改善策</p> <p>左記が「 」の場合は必須</p>
	<p>:目標達成    目標未達成</p>	

取組項目21

【さらなる区民サービスの向上(区政編 改革の柱2 -ア)】

計画	<p><b>取組の方針・目標内容</b></p> <p>(趣旨・目的) 区民の抱える様々な課題に対応する区役所の総合行政の窓口としての機能を充実するとともに、来庁者などのニーズを踏まえ、窓口サービス、区政情報の発信機能のより一層の向上を図る。</p> <p>(取組の概要) 区政情報の発信 区政に関する情報が区民全体に届けられるようきめ細やかな情報発信を行う。</p> <p>(目標) 区の様々な取組(施策・事業・イベントなど)に関する情報が、区役所から届いていると感じる区民の割合 29年度 30% 30年度 40% 31年度 50%</p>	<p><b>当年度の取組内容</b></p> <p>(取組の内容) 区政情報の発信 ・広報紙をより魅力的なものにする。 ・「東住吉区子育て応援ナビ」のホームページを充実し、LINEやfacebookなどSNSをフル活用して、子育て層に必要な情報を届ける。 ・区内に居住する区民だけではなく、区内在勤等の区民に対しても広報紙の認知度を上げる。 ・機能的かつ効果的な広報活動に関する区職員の意識を向上させ、各課の情報受発信力を強化する。</p> <p>効果的な取組であると区長会議において判断された内容を検討し、可能なものを実施する。</p> <p>(目標) 区の様々な取組(施策・事業・イベントなど)に関する情報が、区役所から届いていると感じる区民の割合 30年度 40%以上</p>
----	--	---

中間振り返り	<p><b>取組内容の実施見込み</b></p> <p>( )実施見込み ( )実施できない見込み</p>	<p><b>課題と改善策</b> 左記が「 」の場合は必須</p>
	<p><b>目標の達成見込み</b></p> <p>:達成見込み :達成できない見込み</p>	

自己評価	<p><b>当年度の取組実績及び目標の達成状況</b></p>	<p><b>課題と改善策</b> 左記が「 」の場合は必須</p>
	<p>:目標達成 目標未達成</p>	

取組項目22

【効率的な区行政の運営の推進(区政編 改革の柱2 -イ)】

計画	<p><b>取組の方針・目標内容</b></p> <p>(戦略) 不適切な事務処理の発生を防止、24区における事務レベルの底上げを図るため、区役所事務について、計画的に標準化・BPRに取り組む。</p> <p>(取組の概要) 区役所事務についての標準化・BPRの計画的推進 共通の区役所事務のうち区民への影響が大きいものから標準化に取り組む。標準化の検討にあたっては業務プロセスを抜本的に見直すBPRの視点で取り組む。</p> <p>自主的・自律的なPDCAサイクル徹底の促進 自主性・自律性の向上に向けたノウハウや成功事例などの情報を共有。</p> <p>(目標) 不適切な事務処理事案の件数(公表ベース) 30年度 29年度件数(9件)から10%減(8件) 31年度の目標は、30年度の結果を踏まえて設定</p> <p>日頃からPDCAサイクルを意識して業務に取り組んでいる職員の割合 31年度 85%</p>	<p><b>当年度の取組内容</b></p> <p>(取組の内容) 区役所事務についての標準化・BPRの計画的推進 ・当区の不適切事務処理を課長会等を通じて所属内で共有し、同様事例の発生を未然に防止</p> <p>各区による自主的・自律的なPDCAサイクル徹底の促進 ・課長会等を通じてPDCAの意識徹底を図り、所属内へ周知 ・所属グループウェアを活用し、行事予定や各種照会など情報共有 ・サマーレビュー及び予算編成作業時に、PDCAサイクルを意識した業務改善の取組 ・5S、標準化アクションプランに基づく取組</p> <p>効果的な取組であると区長会議において判断された内容を検討し、可能なものを実施する。</p> <p>(目標) 不適切な事務処理事案の件数(公表ベース) 30年度 29年度件数(9件)から10%減:8件</p> <p>日頃からPDCAサイクルを意識して業務に取り組んでいる職員の割合 30年度 84%</p>
----	---	---

中間振り返り	取組内容の実施見込み	( )実施見込み ( )実施できない見込み	課題と改善策 左記が「 」の場合は必須
	目標の達成見込み	:達成見込み :達成できない見込み	

自己評価	当年度の取組実績及び目標の達成状況	課題と改善策 左記が「 」の場合は必須
	:目標達成 目標未達成	